

都市と田舎を繋げる ひとづくり

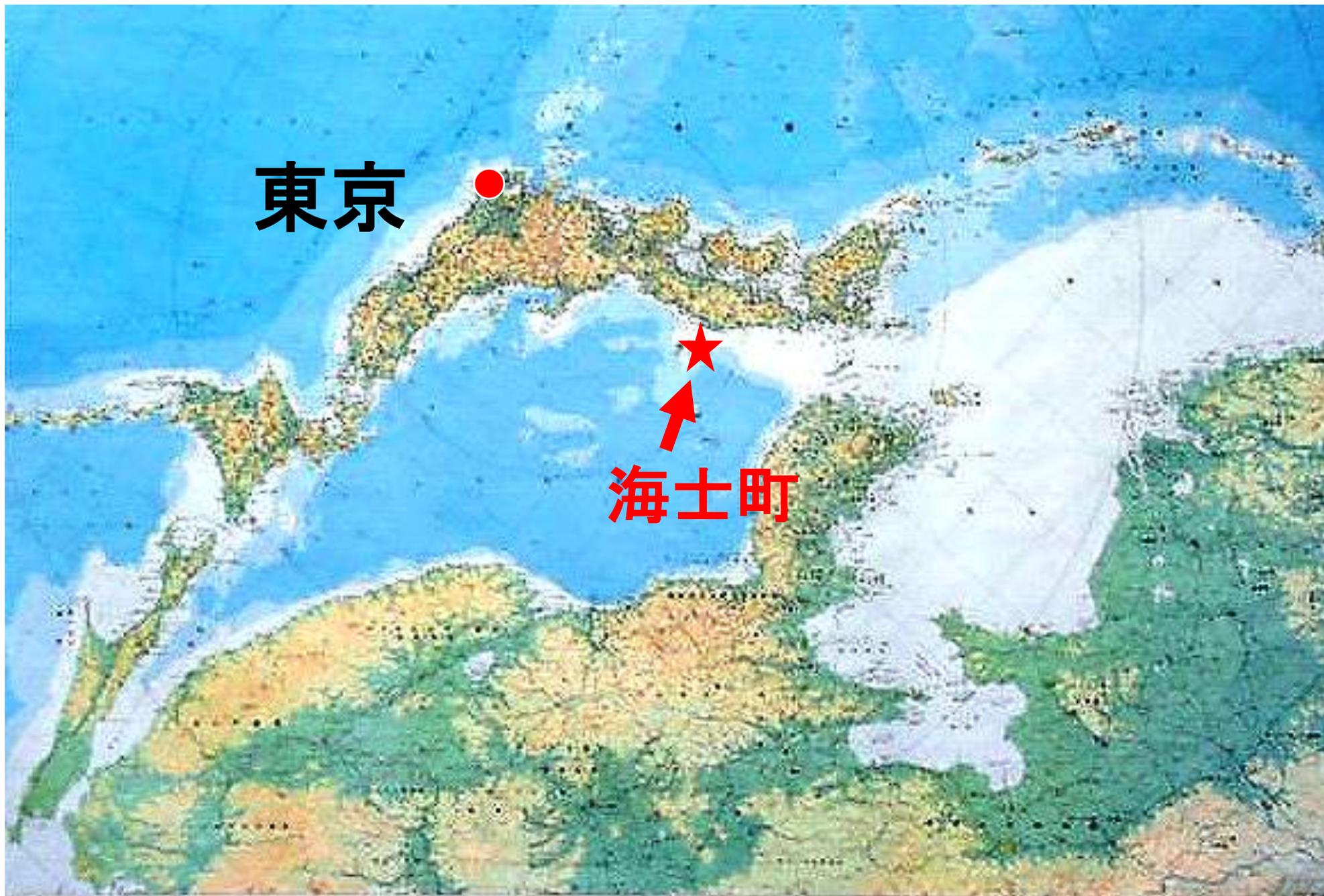
アスノオト

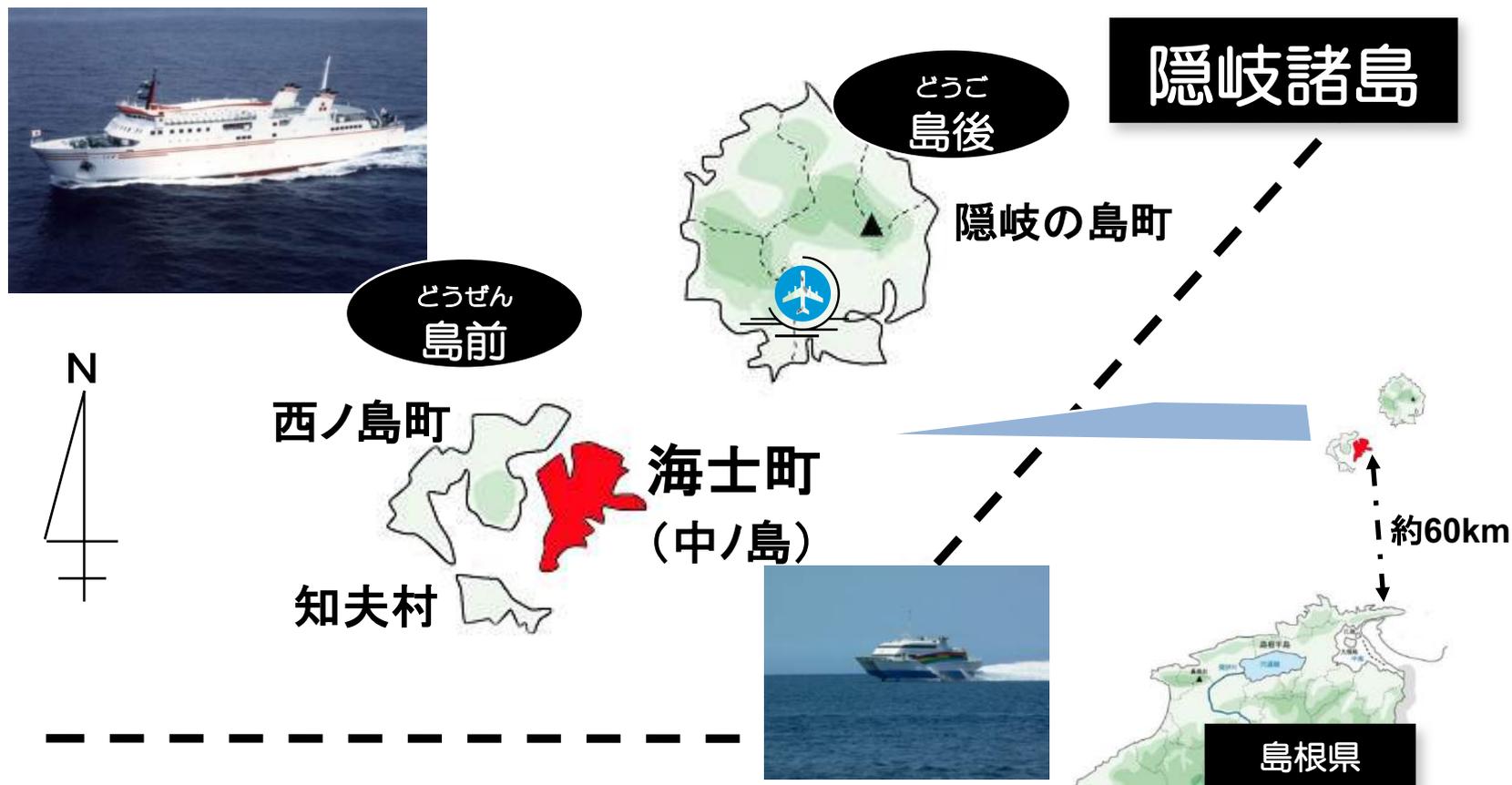
ASUNOOTO

- 1982年4月 大阪に生まれる
- 2001年4月 同志社大学商学部 入学
- 2005年3月 同志社大学 卒業
- 2005年4月 先輩と東京にて、webの制作会社  
立ち上げに加わる
- 2005年12月 仲の良いベンチャー企業に 吸収合併される
- 2007年6月 成長至上主義のグローバル経済に疑問を持ち  
身体を壊したため退社
- 2007年9月 海士町 三泊四日、見学
- 2007年11月 海士町へ移住(当時24歳)
- 2008年1月 仲間とともに、(株)巡の環 設立
- 2014年5月 都市と地方の新しい関係性づくりのため東京へ
- 2015年5月 東京側で 株式会社アスノオト 設立



海士  
「あま」  
と呼びます。





- ◆ 日本海の島根半島沖合約60Kmに浮かぶ隠岐諸島の中の一つ中ノ島を「海士町」とい  
い1島1町の小さな島。(面積33.52km<sup>2</sup>、周囲89.1km)
- ◆ 本土からの交通は、高速船かフェリーで約2～3時間かかり、冬場は季節風が強く吹き  
荒れ、船が欠航して孤島化することも珍しくなく、地理的ハンディキャップは大きい。

みけつくに あま  
御食つ國 海士



島内の田園風景

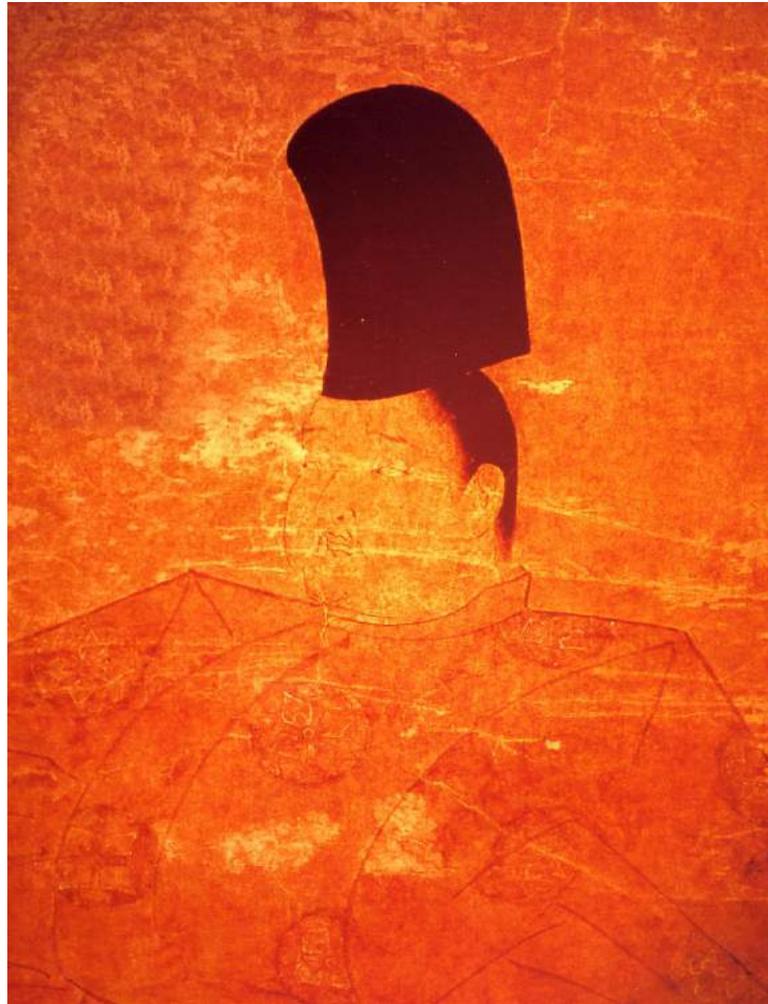
◆対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選に選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島。

中世、鎌倉時代には、

## 後鳥羽上皇

承久三年（一二二一年）

隠岐國海士へ御配流になる。



人も惜し人も恨めしあぢきなく  
世を思ふゆえにももの思ふ身は

我こそは新島守よ

隠岐の海の

荒き波風心して吹け

- ◆奈良時代から遠流の地として遣唐副使の小野篁をはじめ、承久の乱(1221年)に敗れ、ご配流の身となられた後鳥羽上皇は、在島19年余、この島で生涯を終えられ、島民の畏敬の念はいまなお深い。

明治25年

妻セツと来島

# 小泉八雲

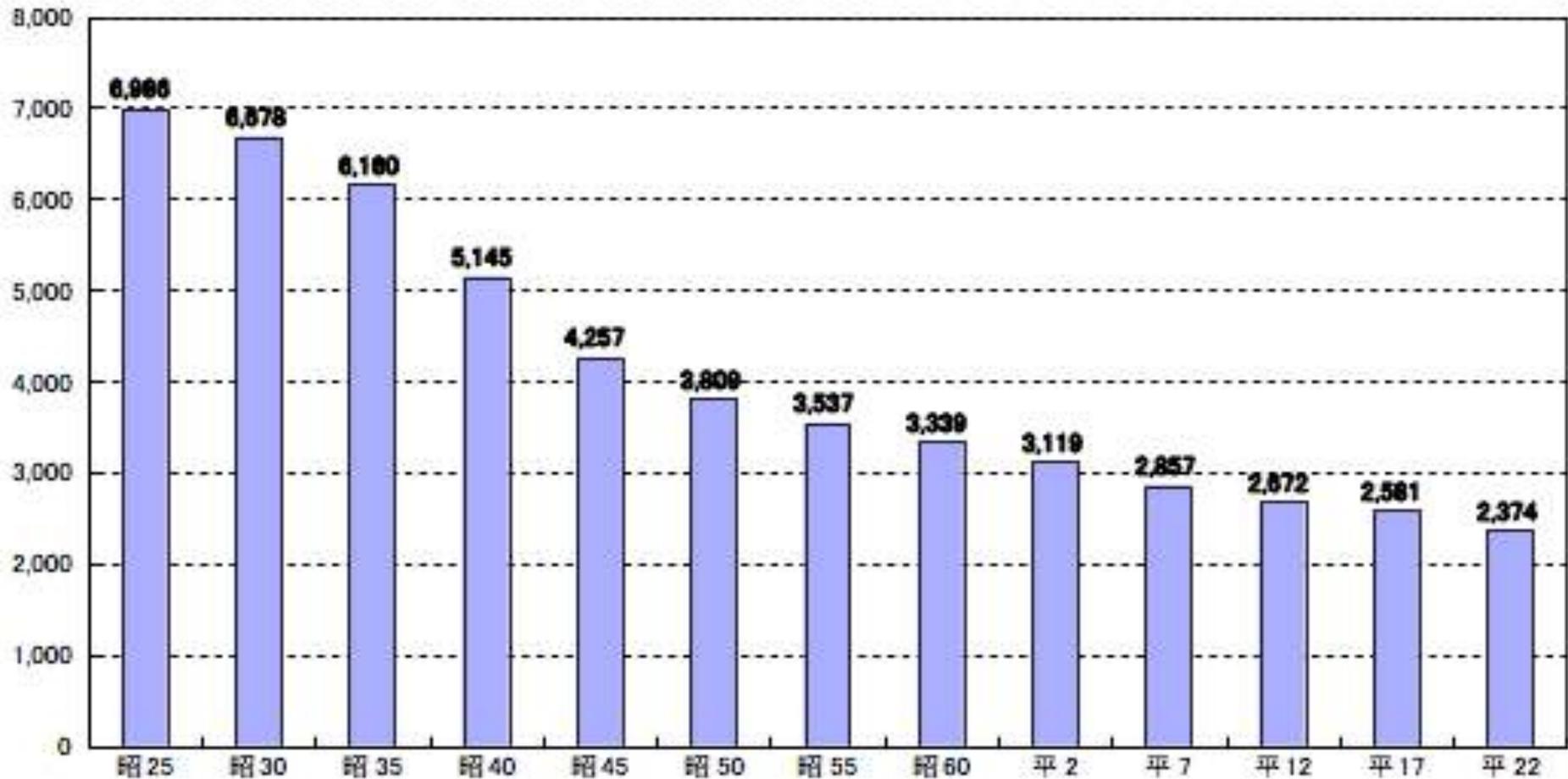
(ラフカディオ・ハーン)



海士 菱浦港を愛し  
鏡ヶ浦」と名付けた

- ◆明治の文豪小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、隠岐旅行の際「菱浦港」を最も気に入り滞在された。
- ◆海士は、その昔より「よそ者」に対するホスピタリティに富んだ土地柄であったようである。

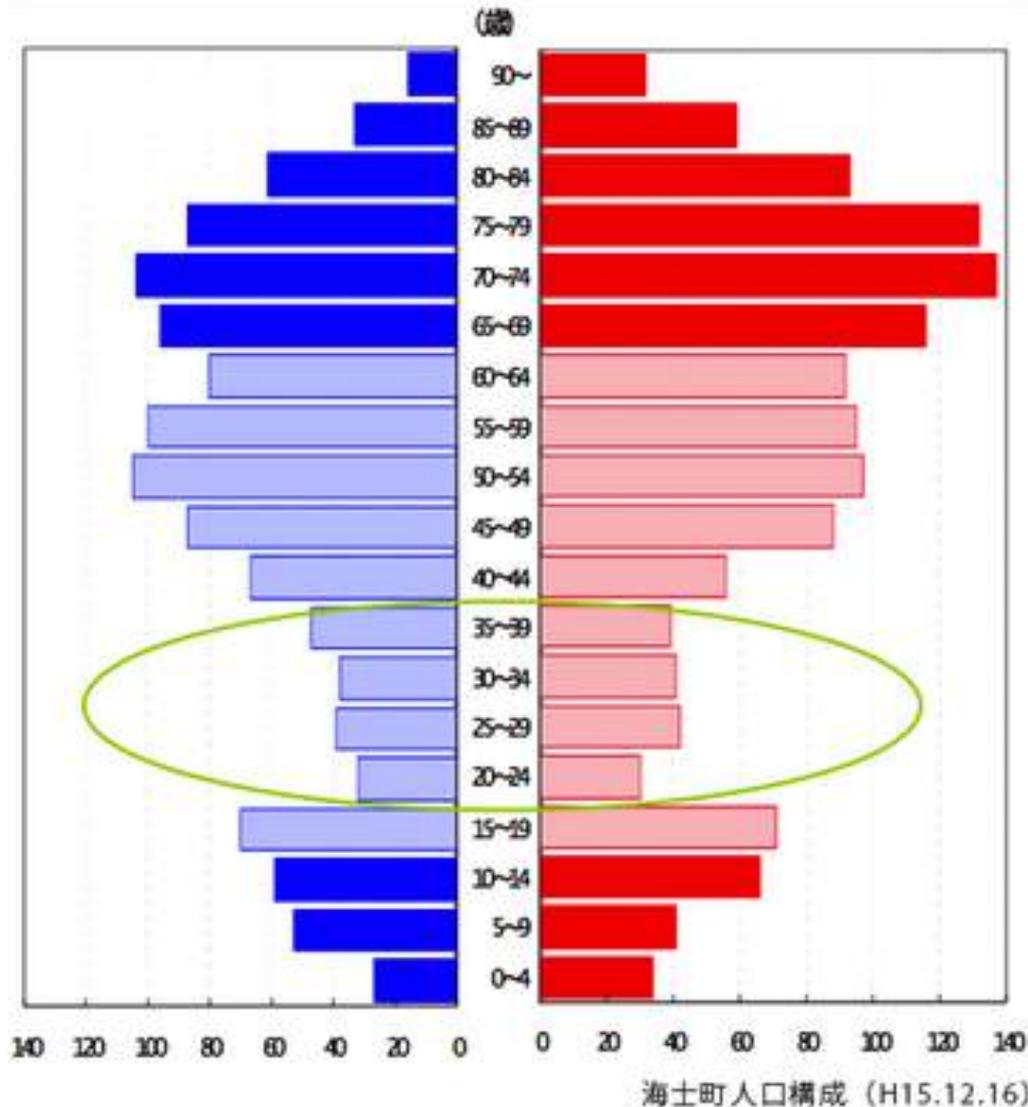
# 《人口の推移（国勢調査）》



※H25.3.31現在 住基人口 2,294人

(H23.3.31現在)

# 《人口の構成》



※高齢化率39%

※年少人口率10%、  
高卒の殆どが島外へ流出

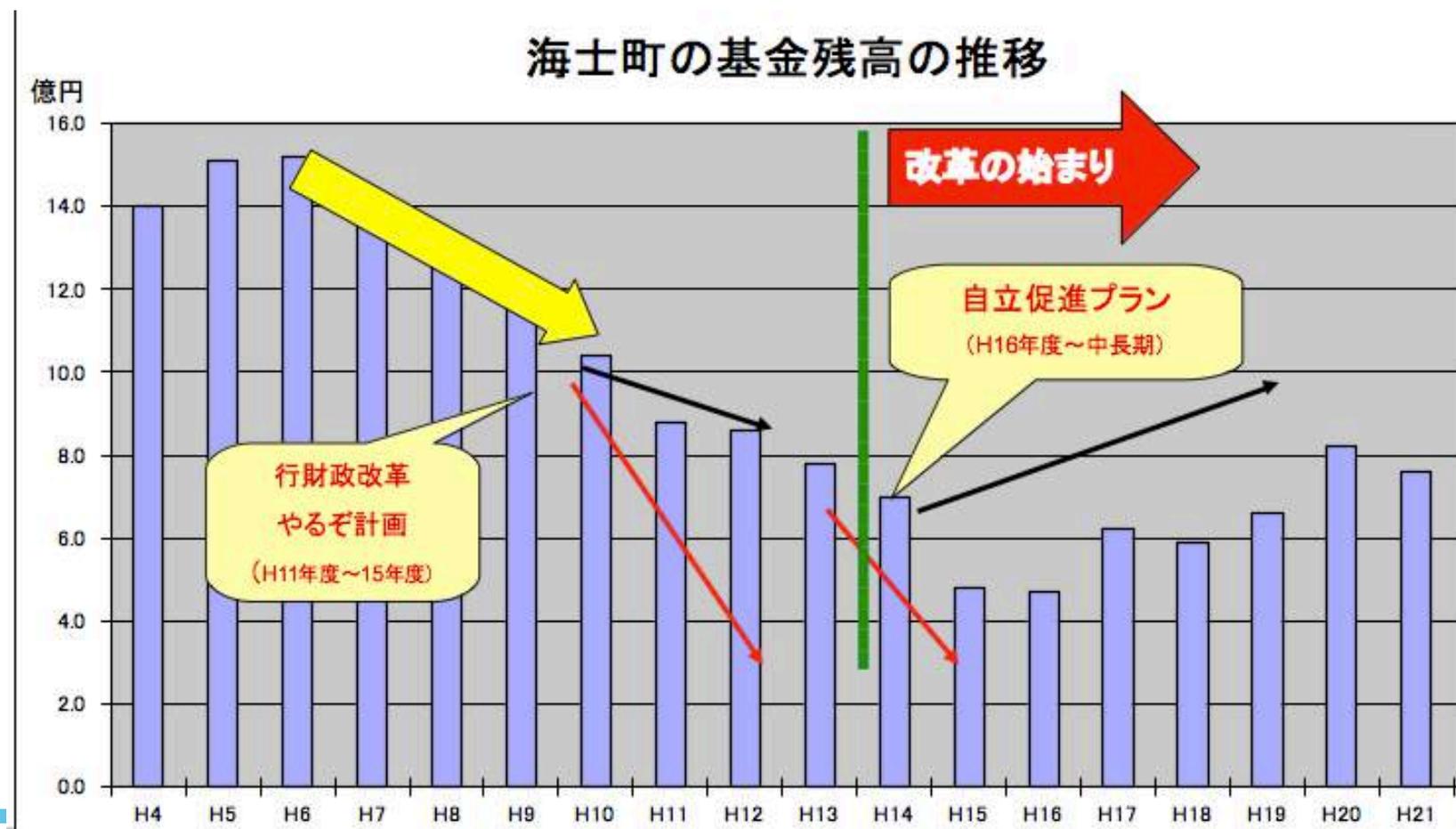
※20~30歳代の地域活  
力が極めて低い

※近年、生まれる子供は、  
年十数人足らずと少ない

◆国の経済対策に呼応した公共事業への投資で社会資本は整備された……  
(離島振興法)

◆その結果、住民の暮らしは改善されたが、  
一方で体力以上に膨らんだ地方債

●平成13年度末約101.5億円ピーク) ●平成15年度末約95億円



現状

—対岸の火事ではない—

・**超**過疎

・**超**少子高齢化

・**超**財政悪化

働く場がなくなれば家族で島を出る**現実**

《島が消える？沈没？》

◆ 単独町制を選択

地域の未来は自ら築く！



◆ 「守り」と「攻め」の両面作戦を立案

# 生き残るための — 「守り」 の戦略 —



役場本庁舎

## ● 行財政改革の断行

# 自らの身を削らない改革は支持されない！

## 行財政改革削減効果

### ■人件費の削減効果 (H17) 約2億円

#### ー給料・報酬カッターー

※三 役 ▲50%~40%

※職 員 ▲30%~16%

(平均22%、ラスパイレス指数72.4)

※議 員 ▲40%

※教育委員 ▲40%

※区 長 ▲10%

日本一給料の安い公務員に！

■出産祝金

■保育料無料化 等々

人件費の5%を目的化

- 給与カットの一部で「子育て支援」を後押し
- 老人クラブ等ーバス料金値上げ、補助金返上
- 各種委員一日当減額申し入れ

生き残るための

— 「攻め」の戦略 —



● 一点突破型産業振興策

# 《攻めの実行部隊 365日勤務体制》

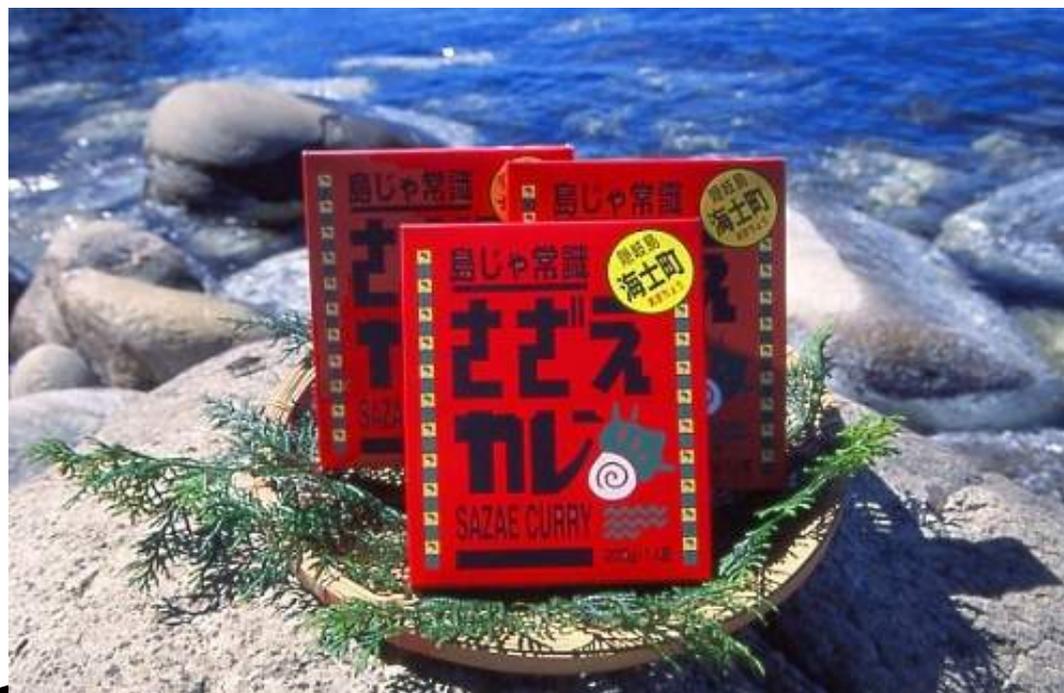
～承久海道～キンニヤモニヤセンター～

☆定住・移住の促進 → 交流促進課

☆本土外貨の増産地商課

☆新産業、雇用創出 → 産業創出課

# 島じゃ常識



# sasae curry

# 海士のいわがき 「春香」



首都圏オイスターバーで大ヒット！

# 海士の「白いか」



**CAS** (*Cells Alive System*)

細胞を破壊しない  
新冷凍技術  
CASを導入



CAS凍結センター  
H17年度稼働

# 島生まれ

年中、海から潮風が吹き上がる。ミネラル豊富な天然牧草。

# 島育ち

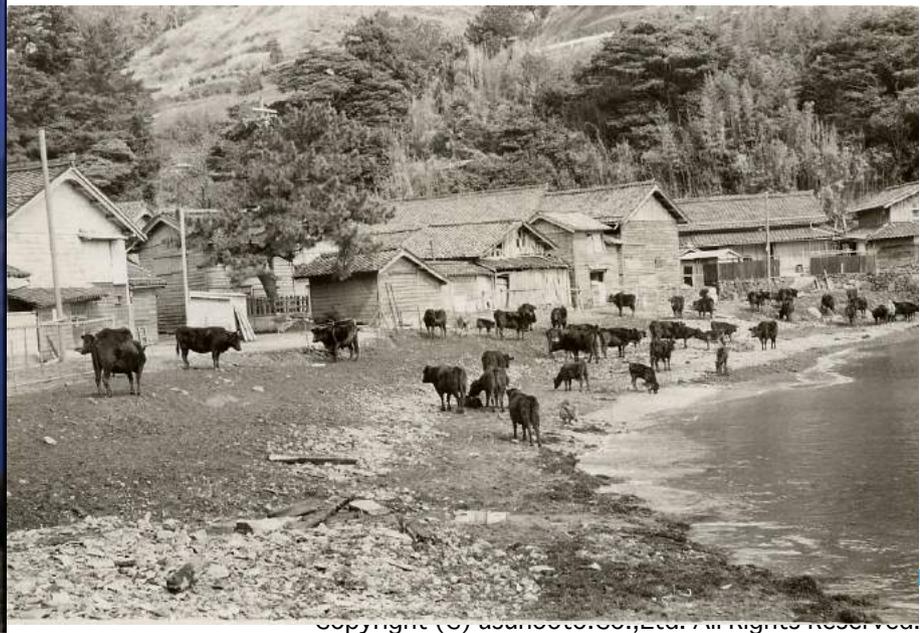
年中のんびりと放牧地で育つ。病気に強くなる。

# 幻の黒毛和牛



←急峻な山を上がり降りする隠岐牛

↓海水をガブガブ飲む隠岐牛



# 隠岐牛



建設業から農畜産業へ異業種参入(構造改革特区導入～農地法規制緩和))



# 極上の島留学

自分らしく生きられ

したことのない体験や

ステキな人にたくさん出逢える

この島で、最幸の高校生活をすごしませんか



学力+人間力保障



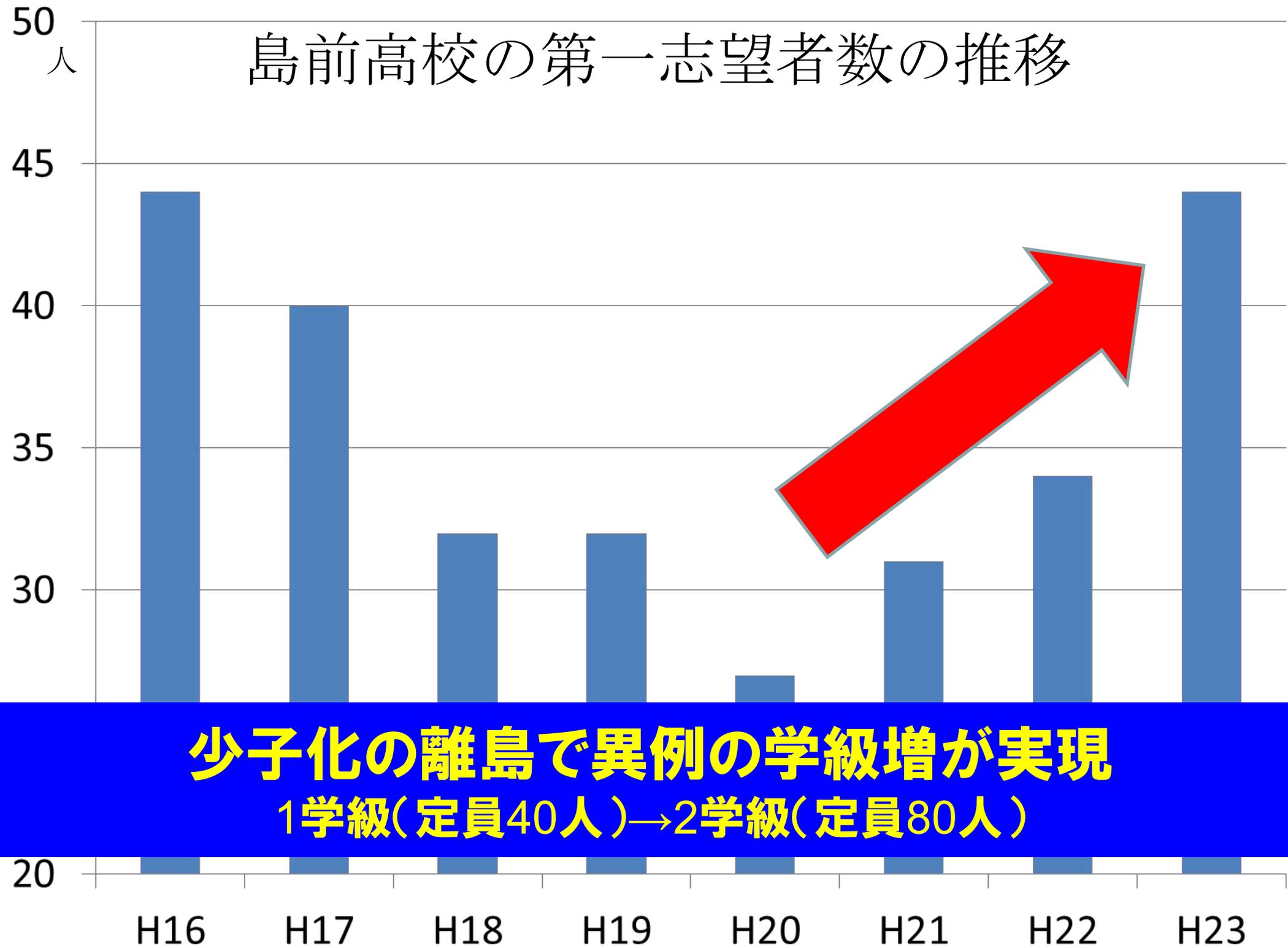
## 全国から意欲ある脱藩生を募集

地域・社会貢献志向と能力の高い生徒  
「多様性」を学校に持ち込み活性化させる



**昨春 新入生の3割強が島外から入学  
卒業生の3割強が国公立大学へ合格**

# 島前高校の第一志望者数の推移



**少子化の離島で異例の学級増が実現**  
1学級(定員40人)→2学級(定員80人)

# 島の挑戦一例

「自立・挑戦・交流」



守

## \* 行財政改革の断行

町長が給与50%カット、課長級は給与30%カットなど  
公務員の給与水準としては全国最低となる。(H17)

攻

## \* 島まるごとブランド化

「海」「潮風」「塩」をキーワードにしたものづくり  
(CAS、隠岐牛、いわがき春香、等)

攻

## \* 小さな島で日本一の教育を

人間力推進プロジェクト、教育・交流を通じたひとづくり  
(高校生の島留学、AMAワゴン、東大で海士中生が講義、等)

受賞

\* 2008年 地域づくり総務大臣賞の大賞(第一号)を受賞。

\* 2010年 「第四次総合振興計画:島の幸福論」がグッドデザイン賞受賞

**人口の流出（50年間で7000人が2400人へ）や  
財政破綻の危機の中、合併せず自立の道を選択。**

**徹底した行政改革、地産地‘商’の産業創出、  
国内外との積極交流、人間力を高める人づくり等  
独自の取り組みを展開。**

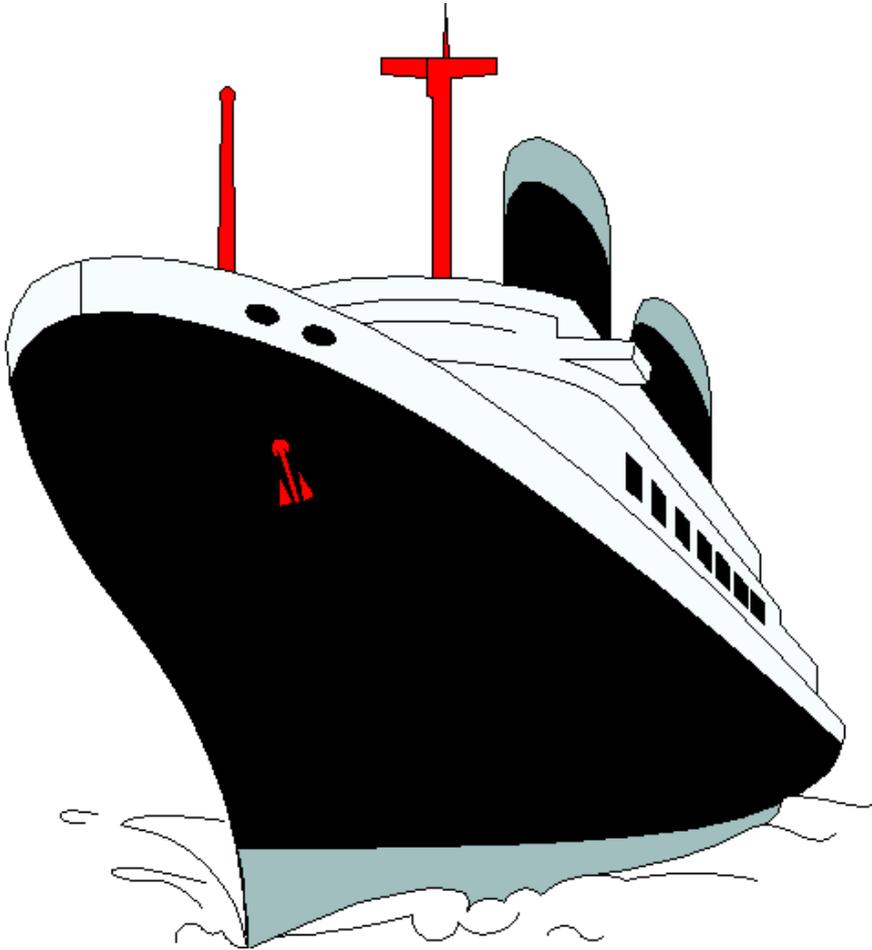
**この10年間で400人以上のIターンを全国から受け入れ  
持続可能なまちづくりの先進地として注目が集まる。**



いままで

最後尾＝負け組(?)

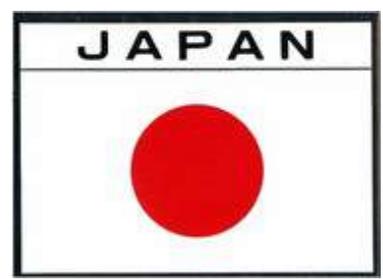
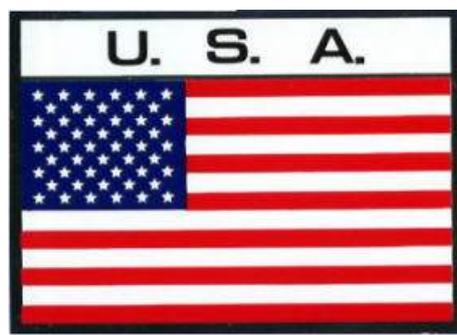
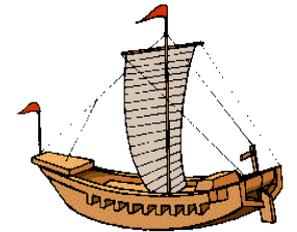
明治～高度成長期イメージ



東京



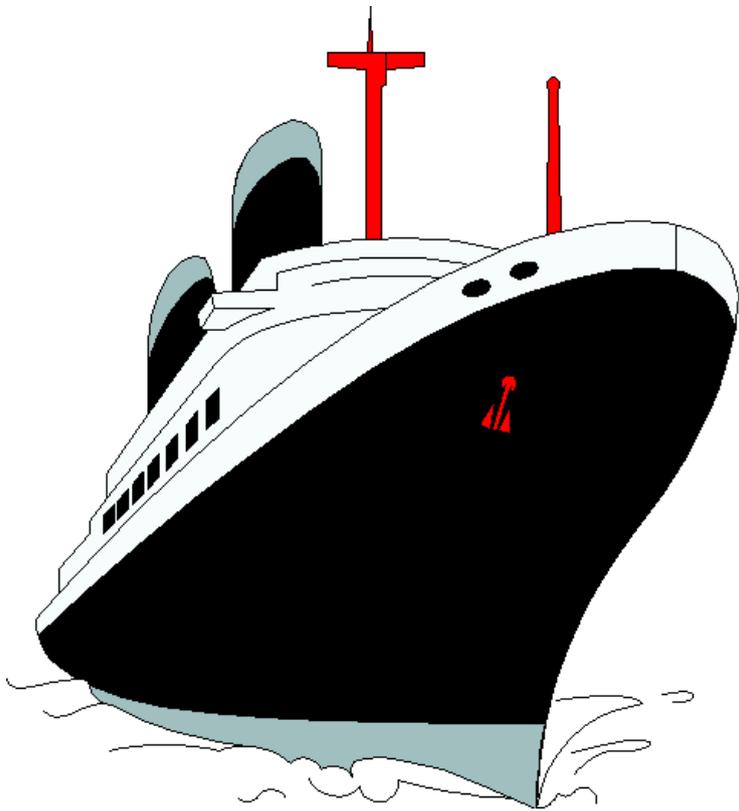
大阪



＝負け組？

これから 最後尾から最先端へ

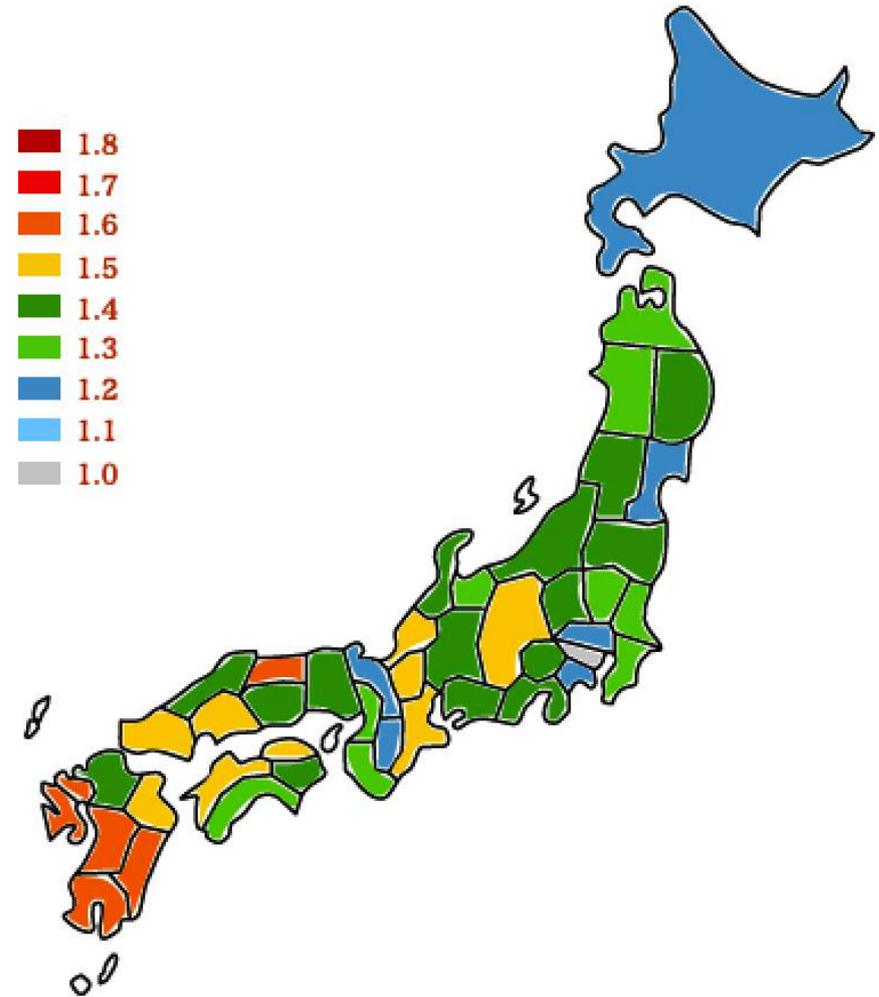
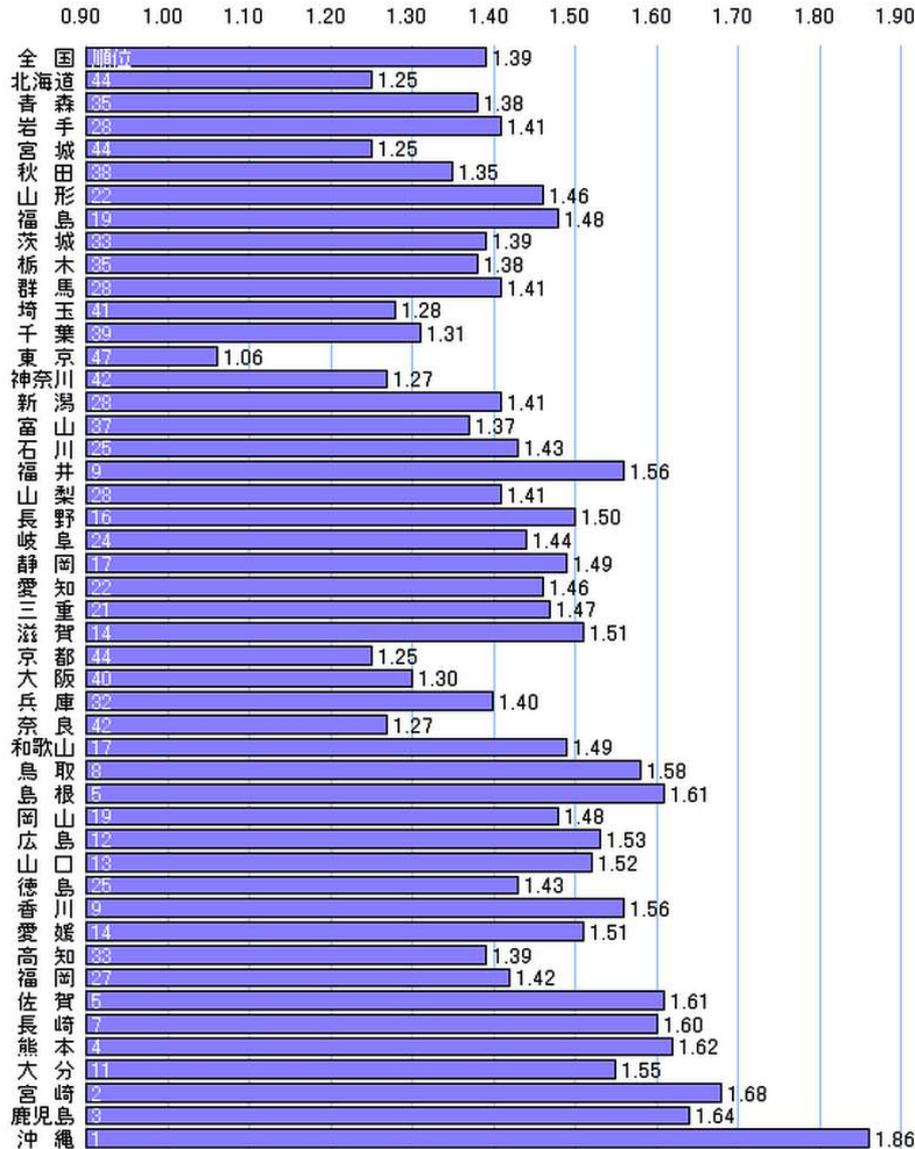
# 持続可能社会への タグボート 海士



東京



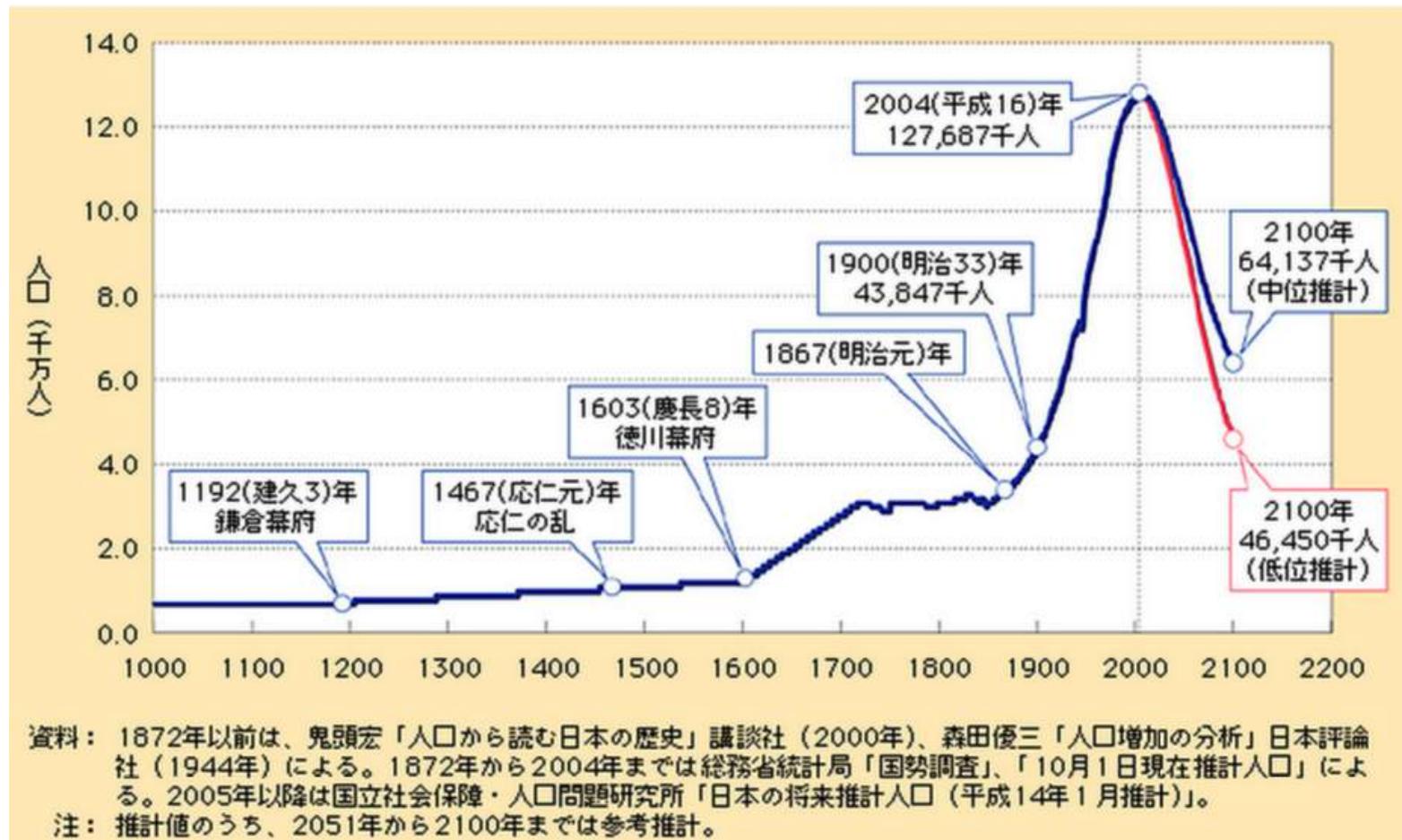
## 日本全体として、出生率、下がり、1.4

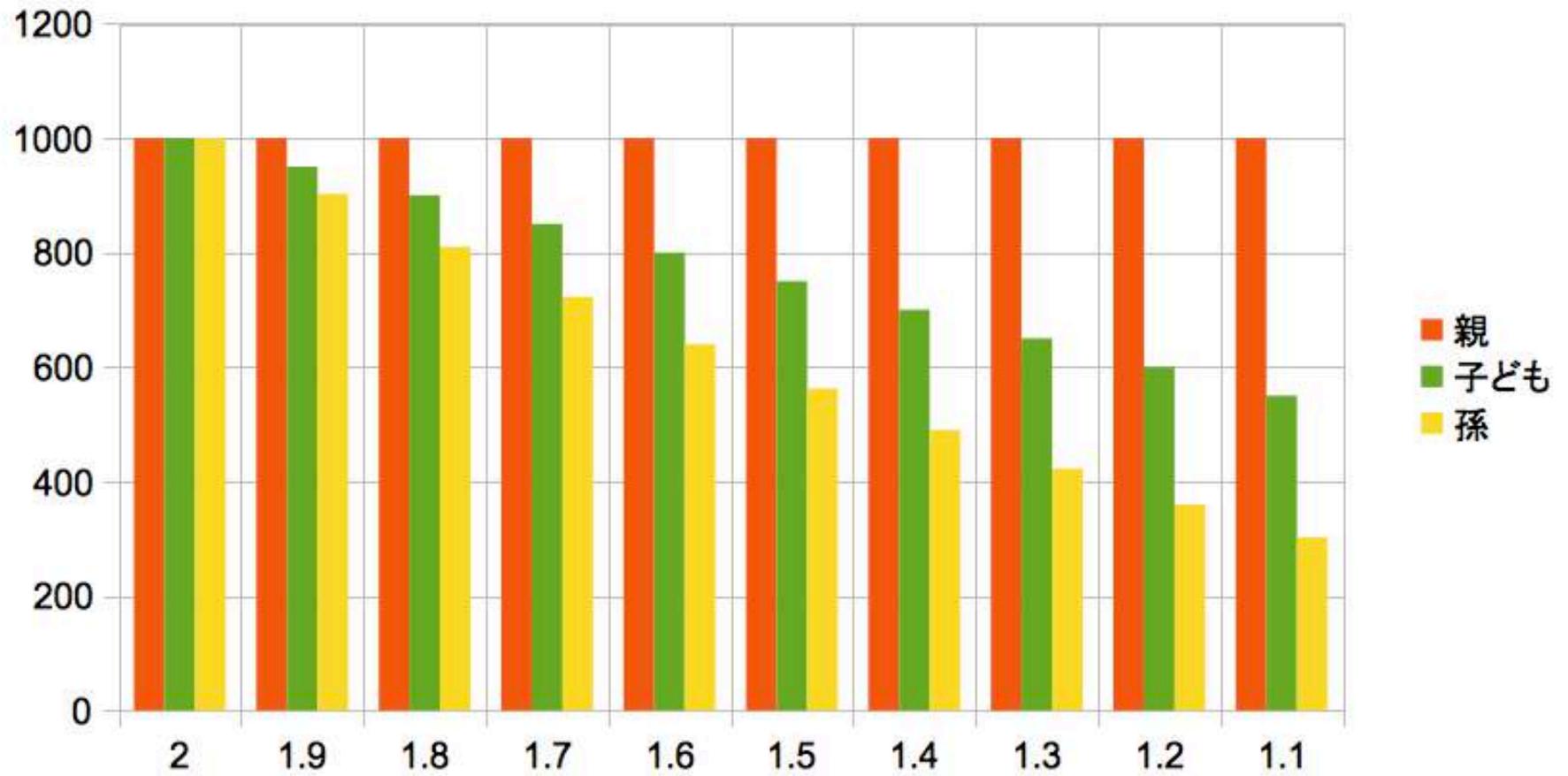


田舎から、若い層が出て行って、田舎で子どもが減る

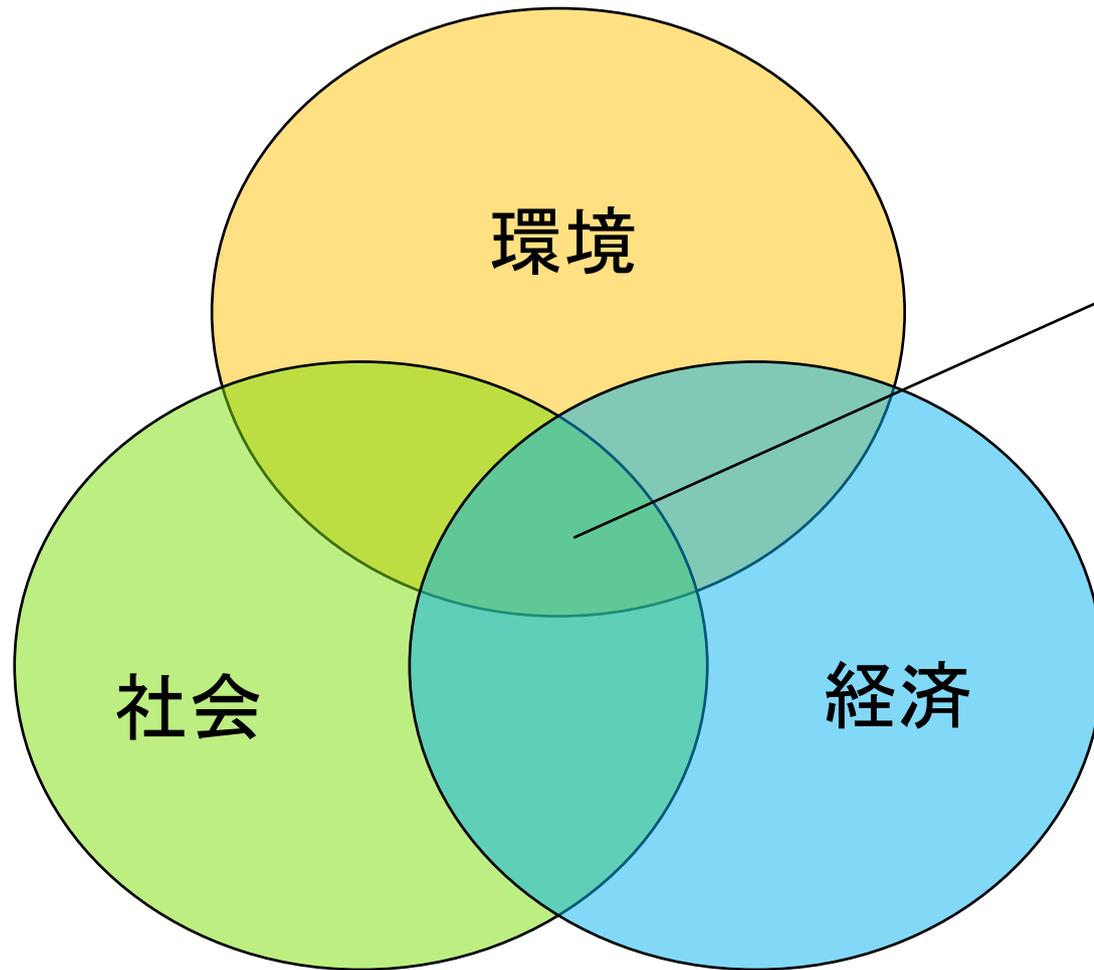
→ 子どもを育てやすい、田舎の力が減る

→ 都会に出て行ける人の数も含めて全体として総数下がる





## 未来を持続可能にするということについて

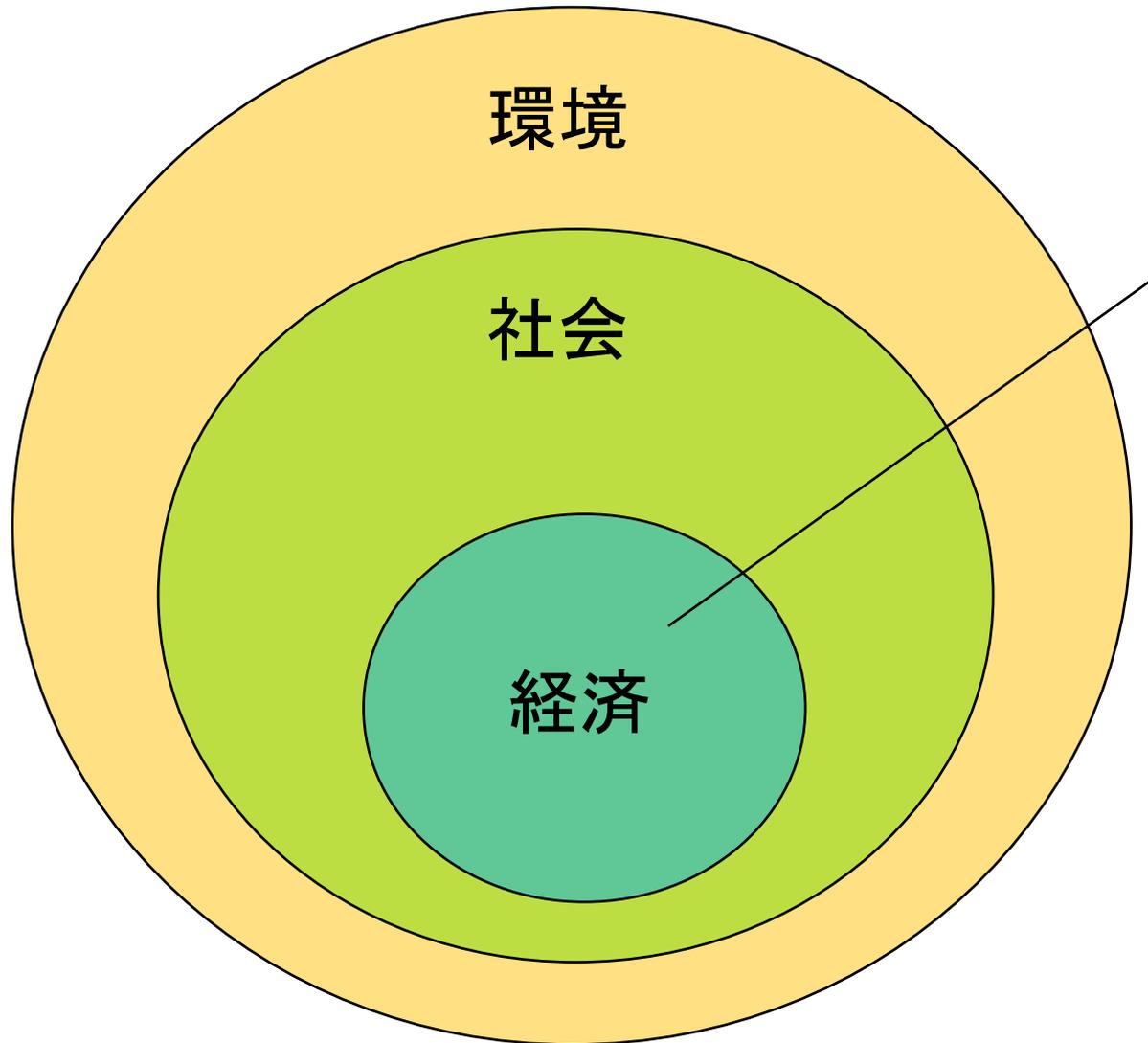


環境、社会、経済

この3つが交わるところが

持続可能な場所

## 未来を持続可能にするということについて



社会や経済がなくても  
環境はそもそも持続可能だった。

(貨幣)経済がなくても  
物々交換で、社会は  
持続可能だった。

行き過ぎた経済が、  
環境の持続可能性を  
超えてしまったから、

「持続可能って大切だよね」と  
いう話が出てきたのに、

なぜかまた、  
経済的に持続可能か  
が議論のはじめにくる。

やりたいのは、 都市 と 農村 というものを、  
経済という一つの軸で、 見るのではなく、

稼ぎが得意なお父さん と

育むのが得意なお母さん

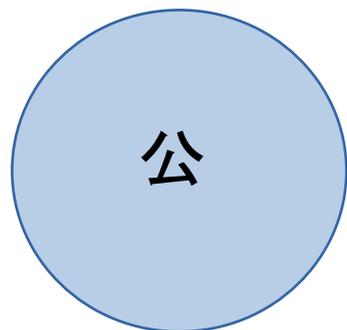
として

「どうやってこの日本を

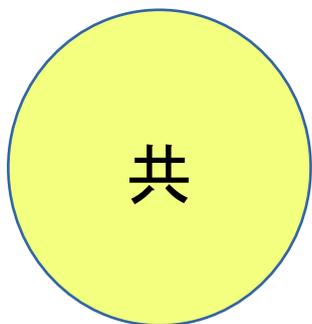
よくしていくチームになれるのか」

ということ

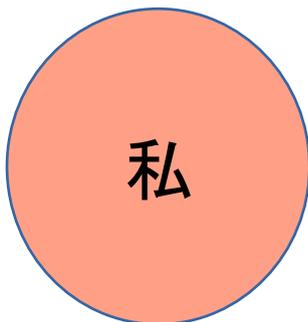




Public



Commons



Private

行政が合併して

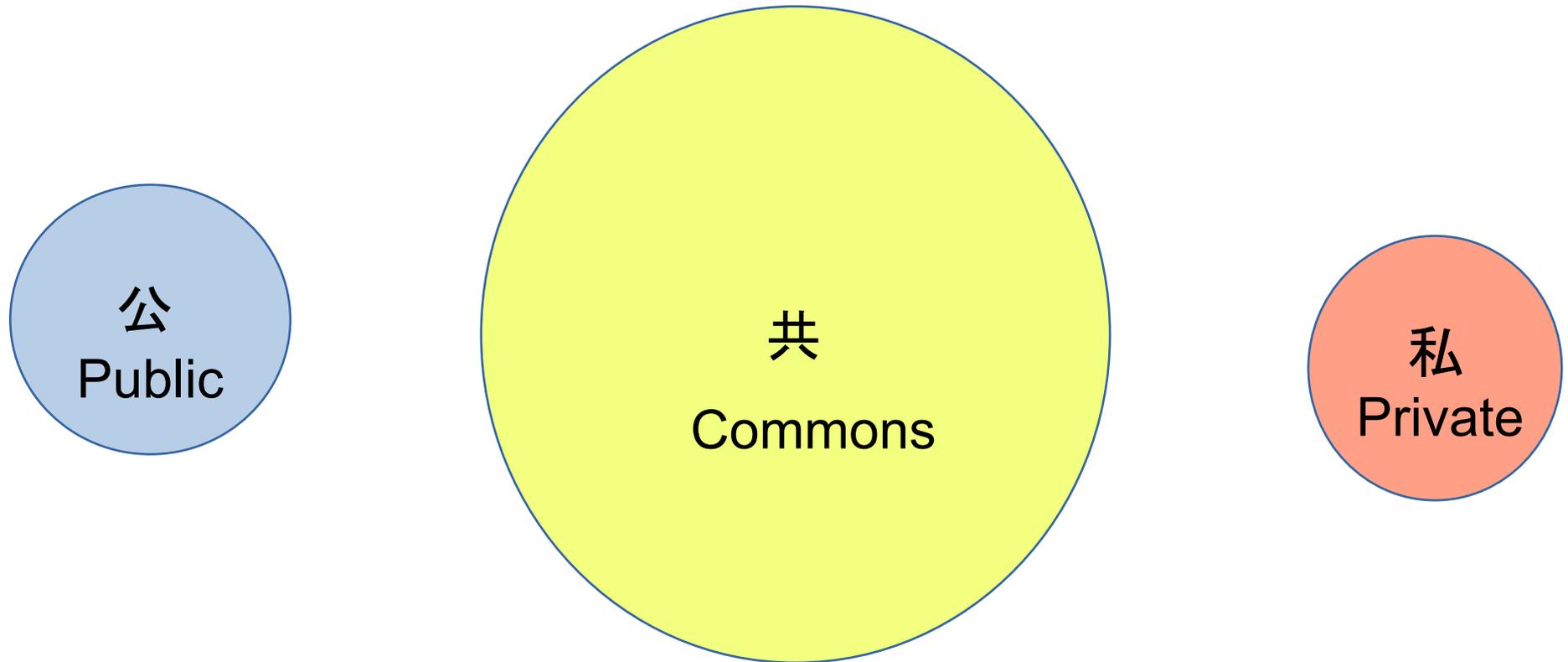
公共サービスが  
弱くなってしまふ

という文章がある。

しかしよく考えてみると

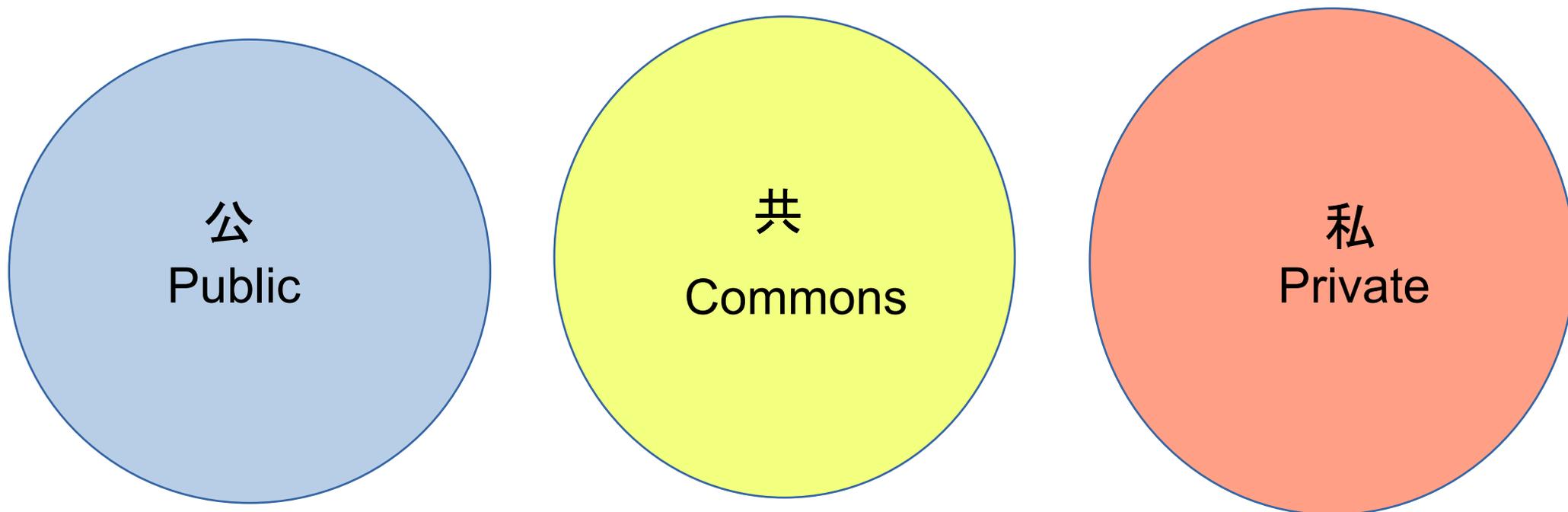
公が、合併するのであって、

共は本当は変わらずにそこにある。



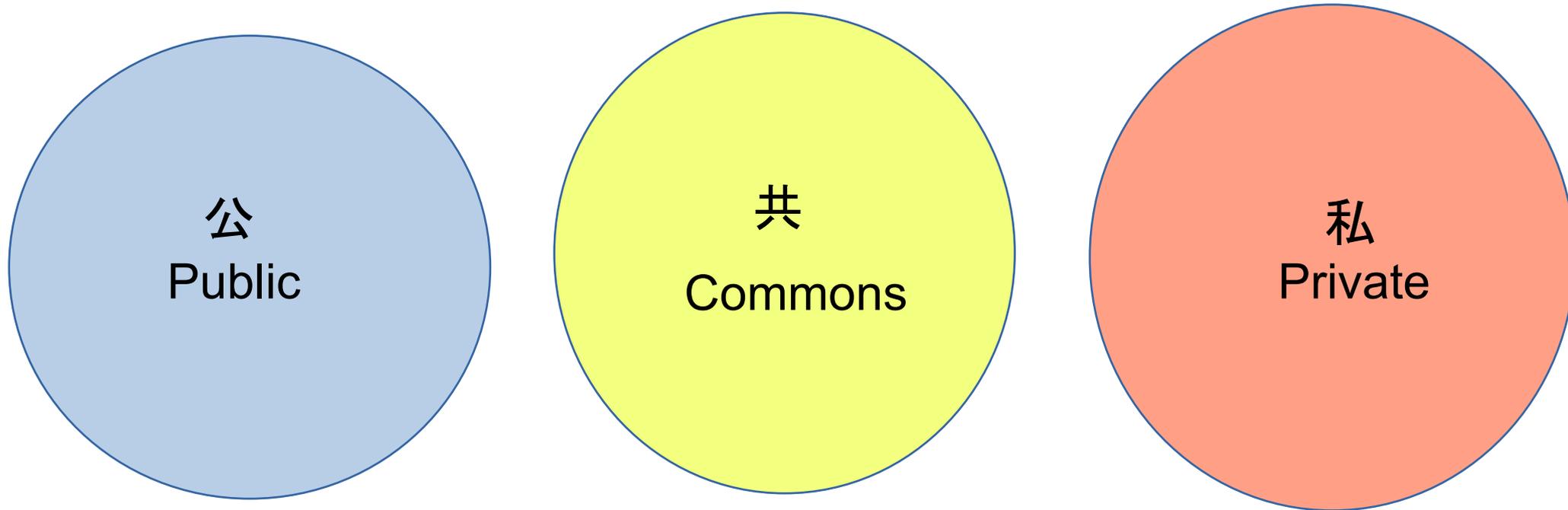
江戸時代以前、日本は、「〇〇村の〇〇」や「どこそこ家の誰々」という感じで共というものが生活の基本にあった。

5人組や村単位の課税システム = 共は、確かな意味を共有していた

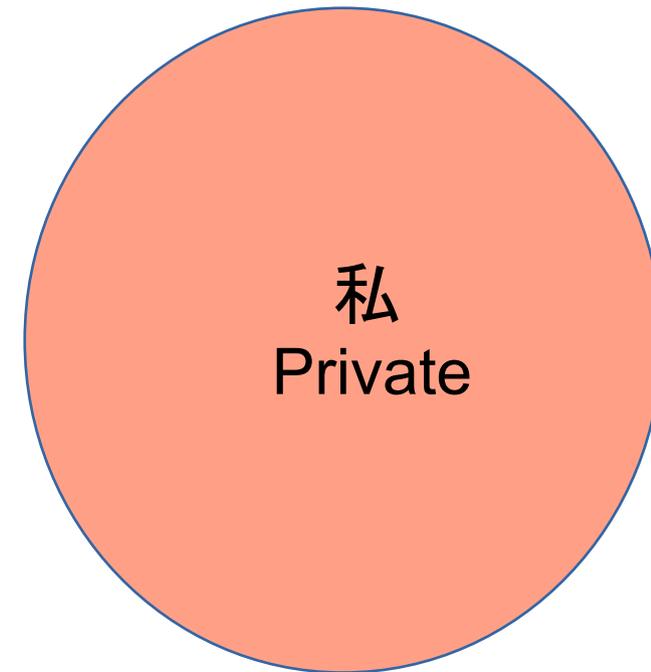
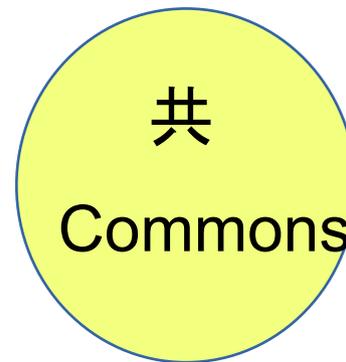
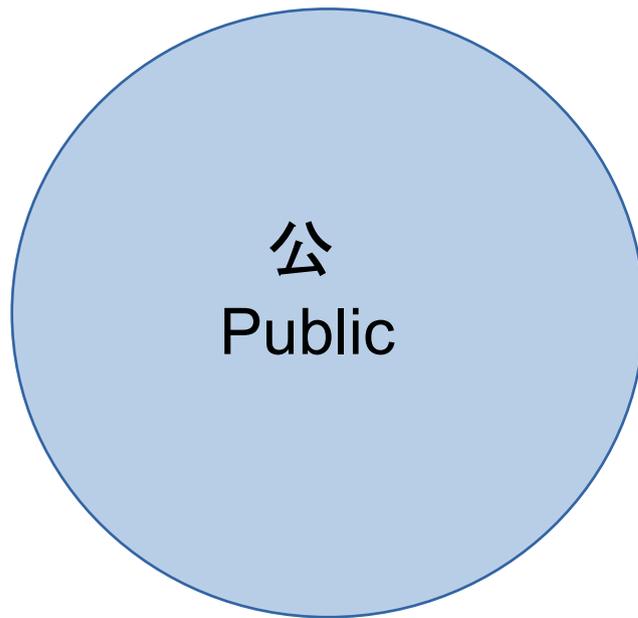


明治政府が中央集権化し、本来、共でやるべきだったこと、例えば水道とか、清掃ゴミ処理など、を公共サービスとして巻き取ることで権力を大きくした。

課税システムを共の単位から私の単位にして、貨幣によって納税するシステムを取り入れた

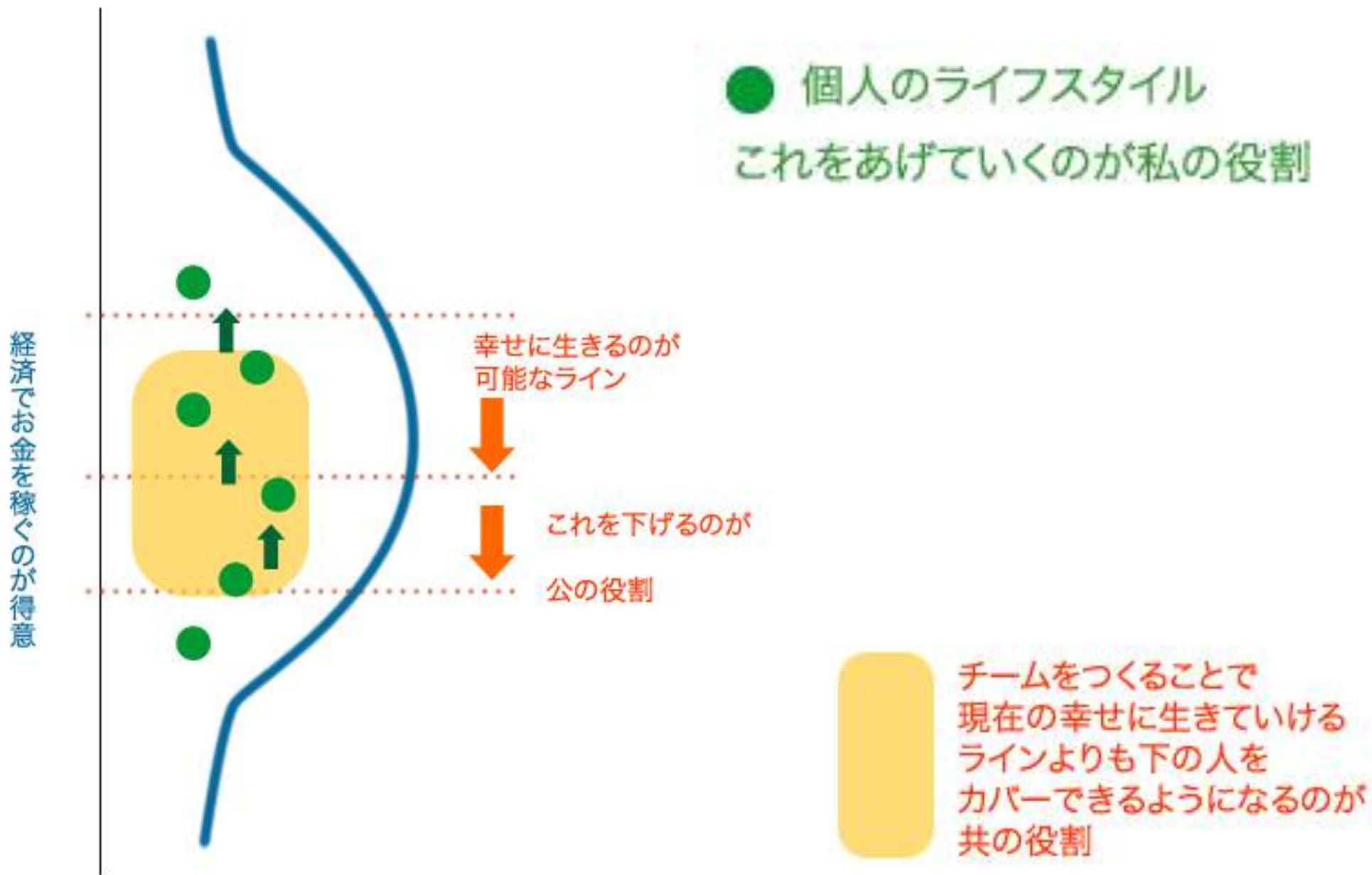


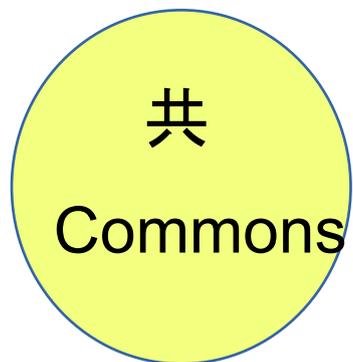
ムラという単位をなくした人々に、新しい共の役割を担ったのが  
「企業」という単位で、「終身雇用」や「運動会」「健康診断」などまで  
会社が担うようになった。



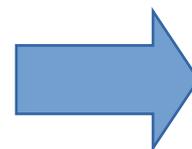
共の担い手だった会社が、基盤が弱くなり、  
共を支えきれなくなってきた。

「終身雇用の崩壊」「成果報酬システムの強化」



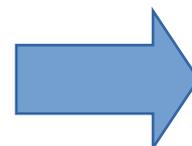


土地に縛られて、選択不能だった「共」



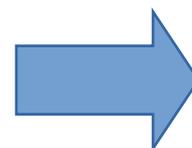
過去共有型

会社という「お金を稼ぐという共同体」という縛り



安定共有型

同じ未来を見ている仲間としての「共」



未来共有型

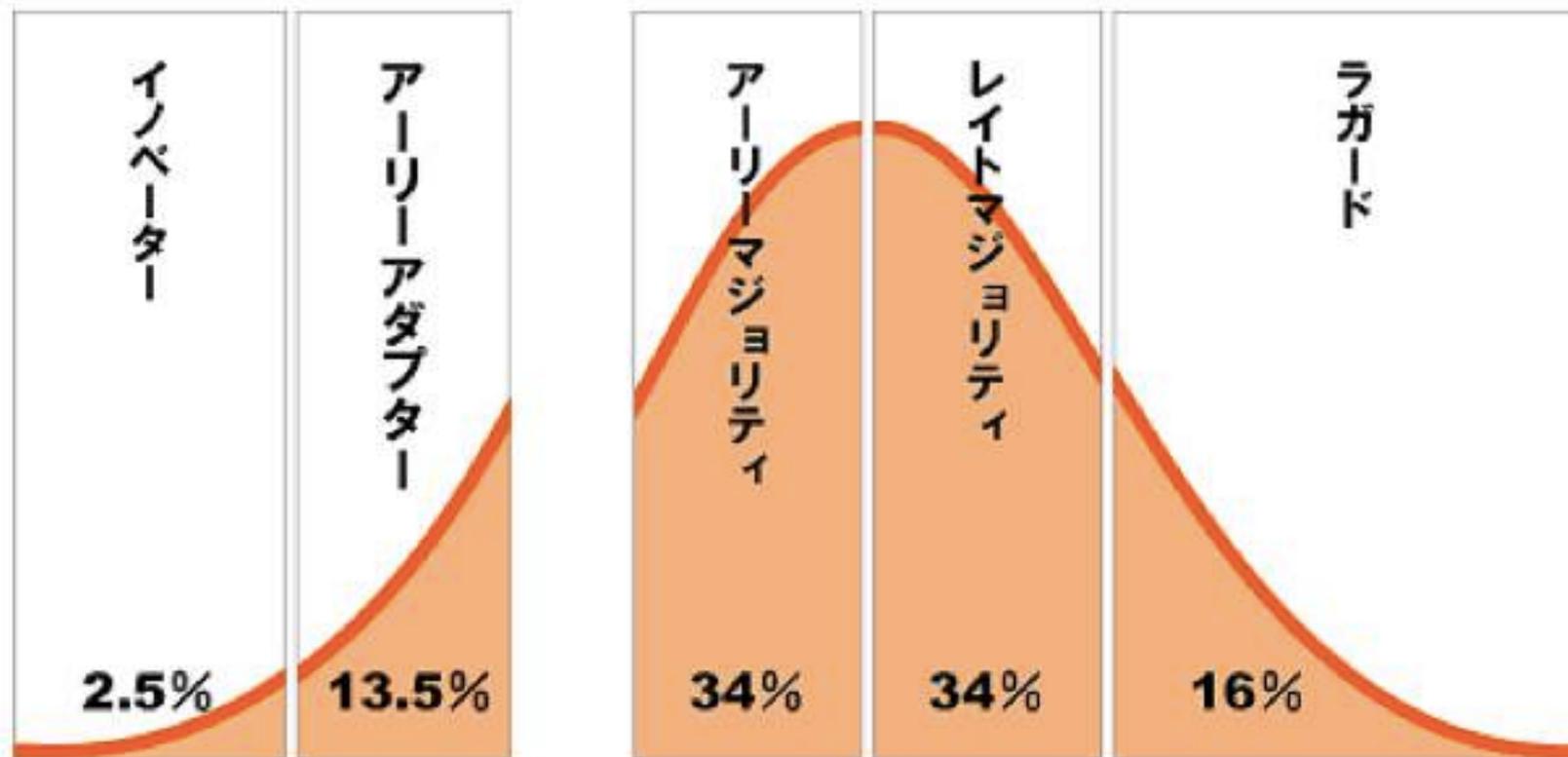
都市と田舎をつなげる、新しい共のチームを目指して

未来づくりは、結局は、人づくり。

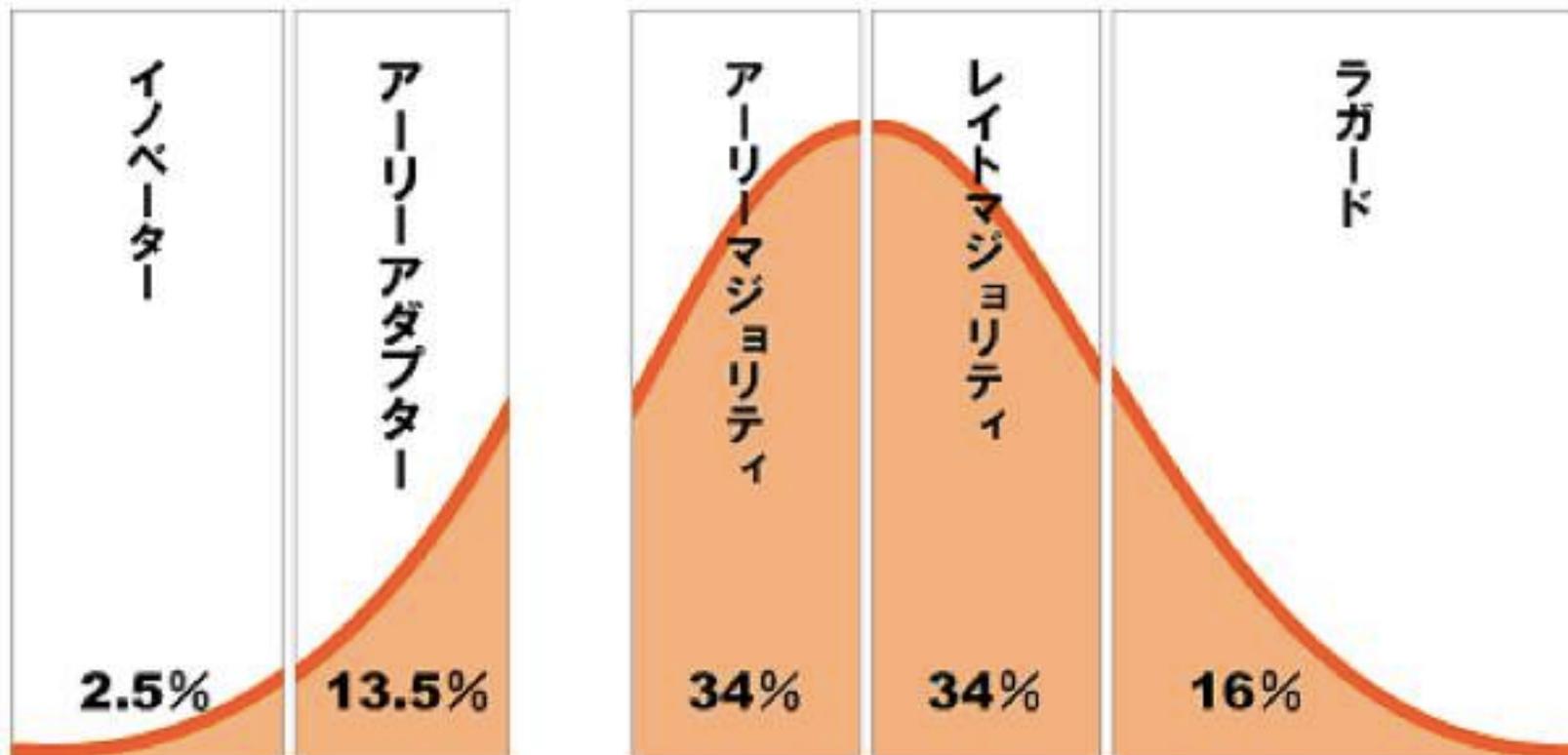
A それぞれの人がどう感じて  
お互いの納得感を高める受信力 = 人間関係スキル

B 物事を進めていく推進力 = ビジネススキル

## キャズム理論で、今の地域をみていみると



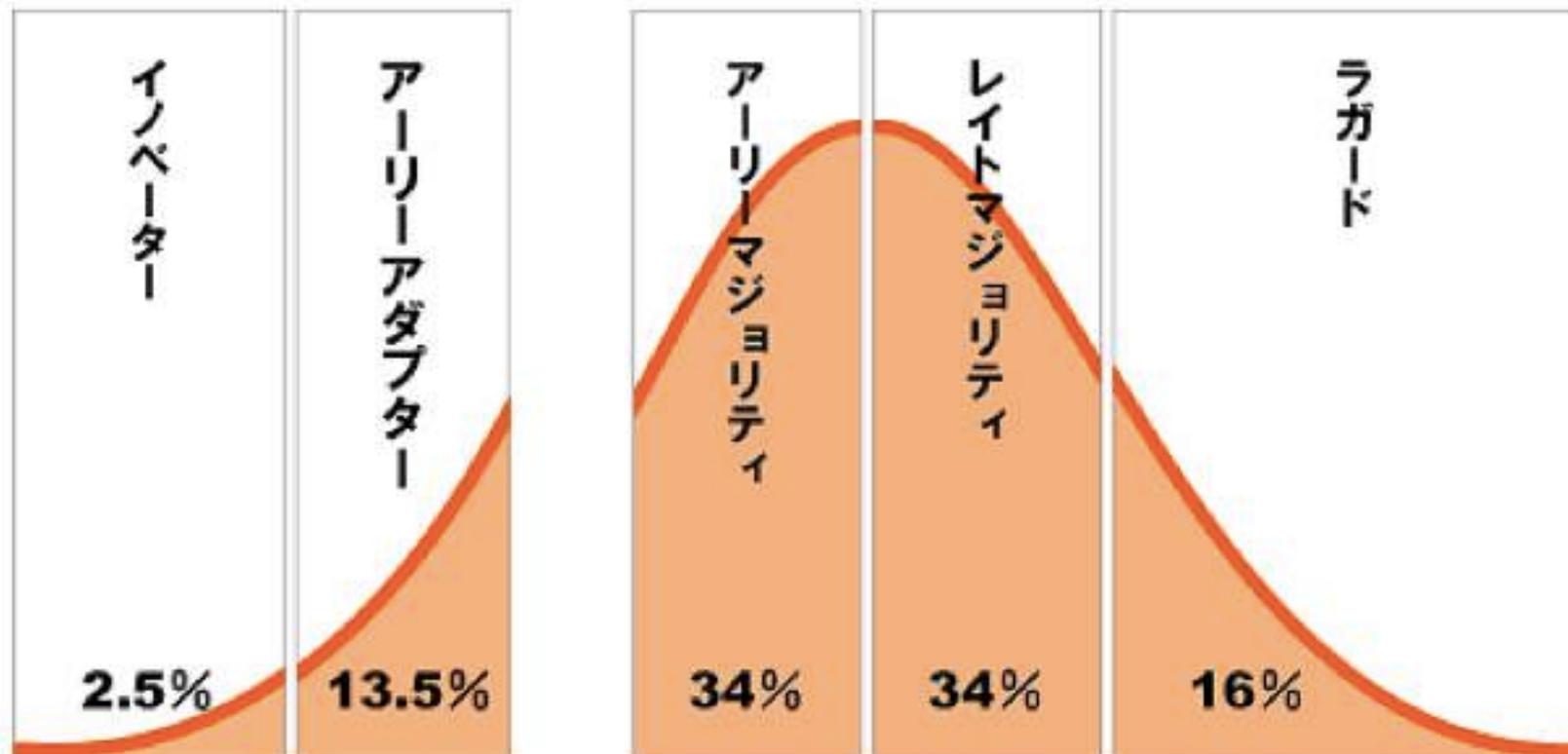
エベレット・M・ロジャーズが提唱したイノベーション理論に  
ジェフリー・A・ムーアが、アーリーアダプターとアーリーマジョリティの間に  
大きな溝(キャズム)があると提唱し、それを越えることが重要とした。



地域に新しく人が入っていく場合、

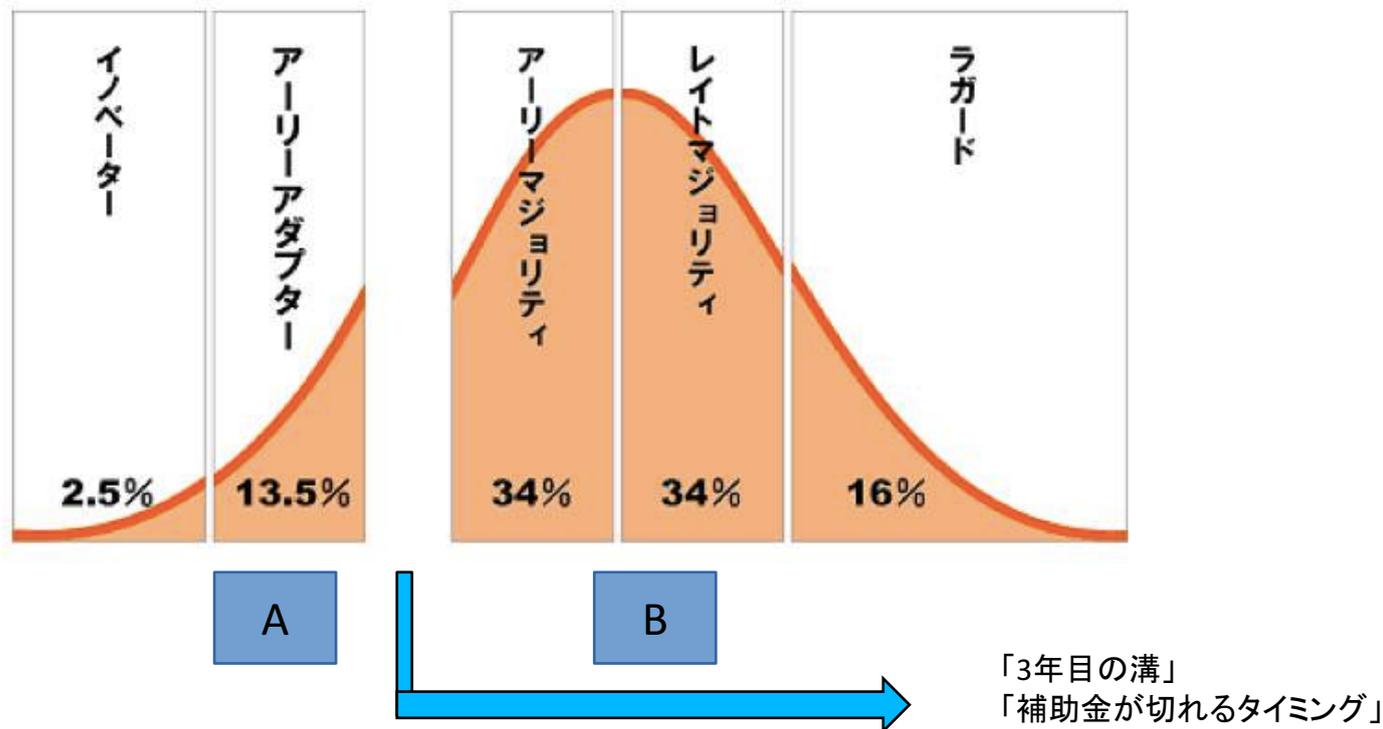
まず始めの2-3年程度は、社会関係資本を構築することが必要になるため  
(金銭で物事が動く率が低く、人間関係で物事が動く確率が高いため)

入っていく側の人間が、「自分を田舎に合わせていく力」が必要になる。  
受信力が高い人の方が、田舎になじみやすいし、田舎を楽しみやすい。



しかしながら、新しい産業を起こさないと地域に既存事業の雇用はあまりない。

すると、3年目以降は、  
 「A:土地の人とともに変革を起こせる力」が必要になるのだが、  
 土地に馴染む力(多くの場合、教わるのが上手)と、  
 「B:人を巻き込んで新しいことを起こす力」  
 (多くの場合、自分の信念を貫く力)は、二律背反することが多い。



馴染むためには、Aが必要だが、馴染んだ後、  
実際に継続的に暮らしていくためには、Bが必要になる。

AがあってBがない場合、  
「いい人だけど、稼げなくて田舎から出て行く or  
田舎の都合に振り回されて、結局暮らしが辛くなっていく」。

BがあってAがない場合、「稼ぐことは出来るけれど、孤立していく。  
土地の魅力とは切り離された魅力で稼ぎと暮らしが別々になる」ということが起こる。

このキャズムを超えていくためには、そもそも1人の人格だと難しい。

チーム(複数人)で新しい土地との関係を創る方法を模索する。

具体的には

一人は、土地に馴染む側のAの力を強めて、田舎側で社会関係資本を蓄積しておく。

もう一人はBの力を活かして、都会との繋がりを強めて、土地の魅力を発信し、稼ぎへと転嫁するためのサプライチェーンのメンテナンスを行う。

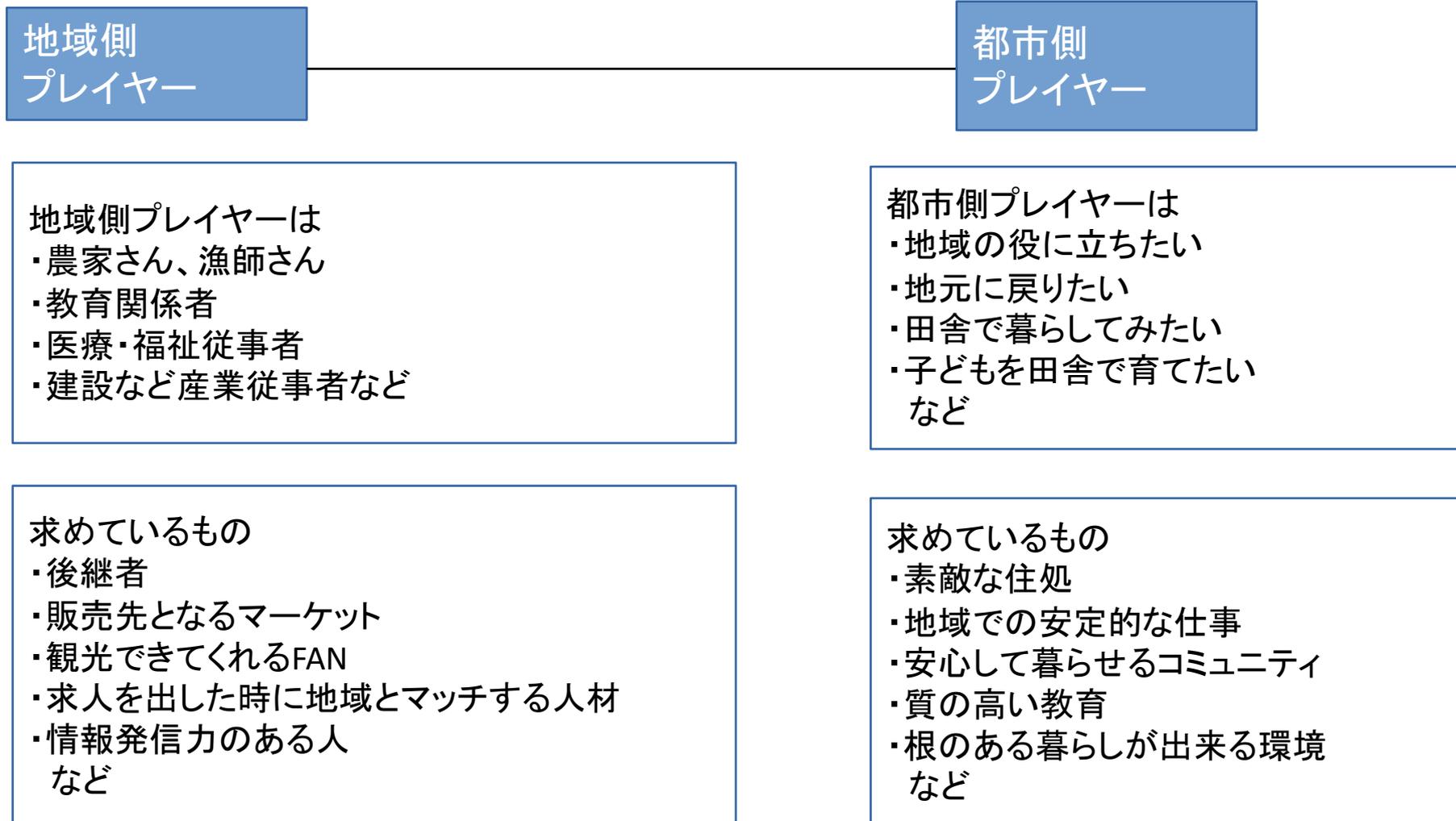
この全体戦略は、

「地域の中で、地域の人間を相手に商売をすれば問題がないビジネスモデル」  
はほぼなく(美容師や医者などは例外)、そのため多くの場合

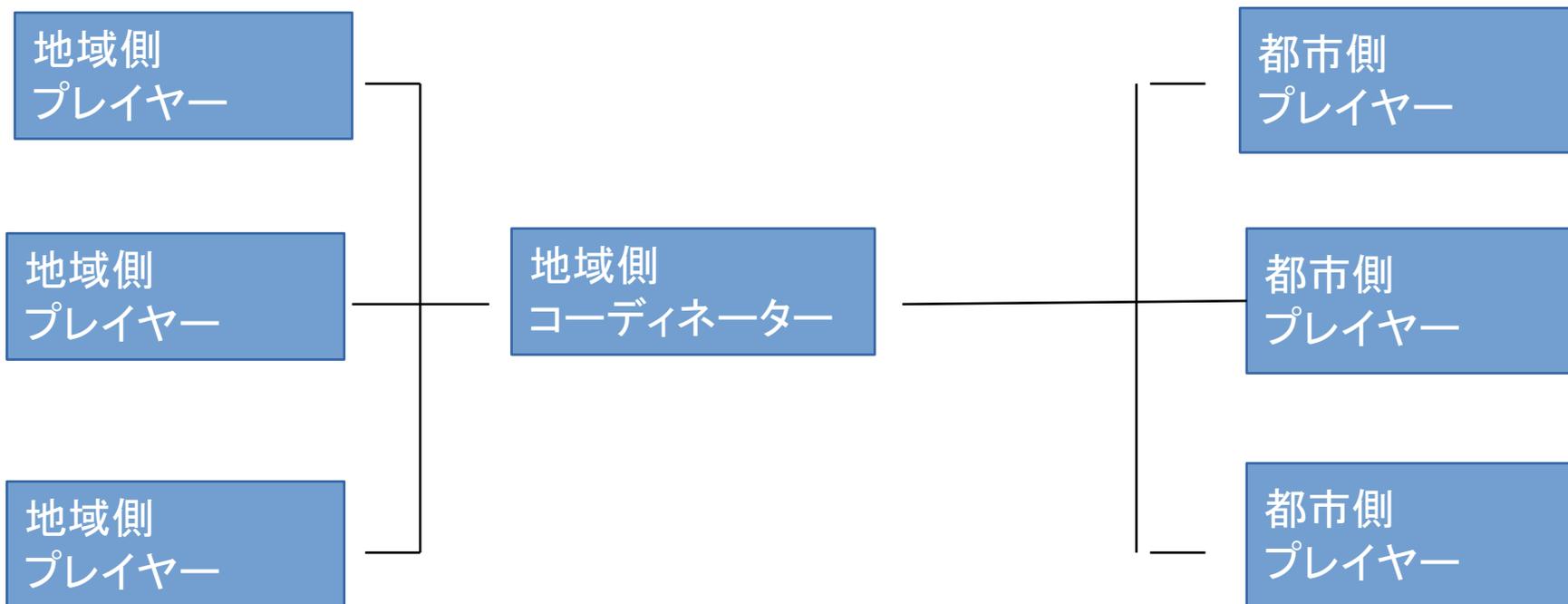
「地域の中での地力を高めつつ、都会へとビジネス上の出口を求める」必要がある  
ビジネスモデルで汎用的になると考えられる。

そのため、このモデルに関わるステークホルダーは、  
地域側だけに留まらず、都会側を含める。

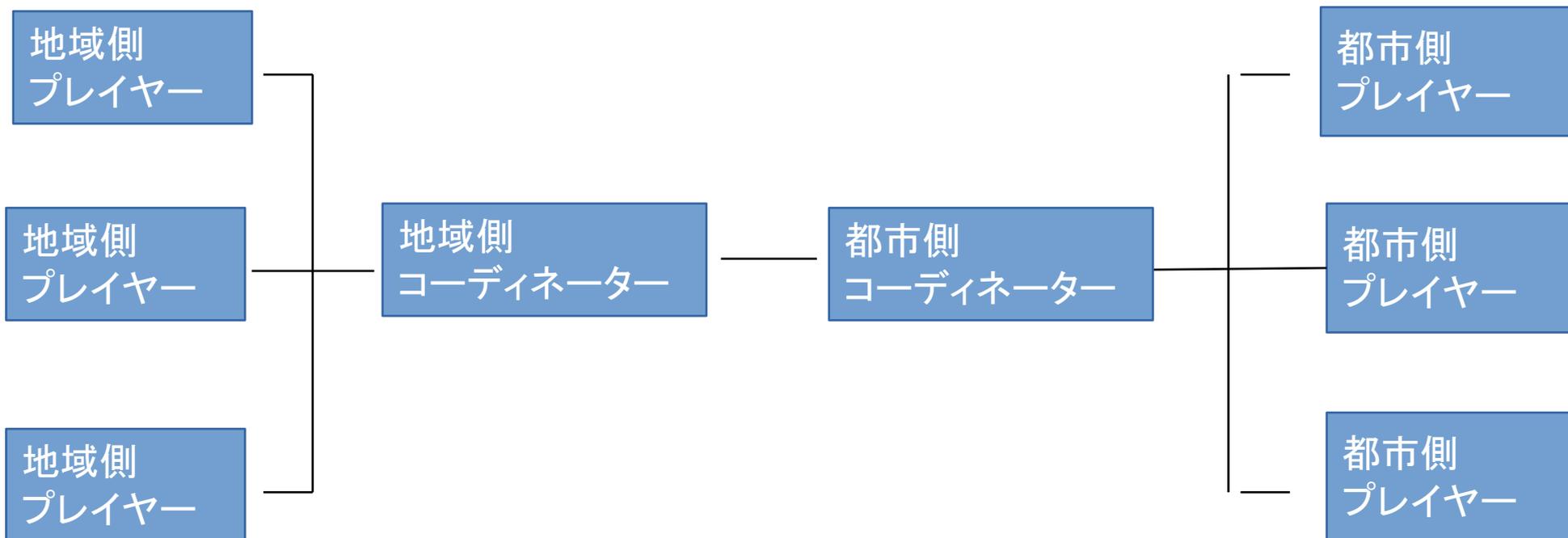
## パターンA: 単発モデル



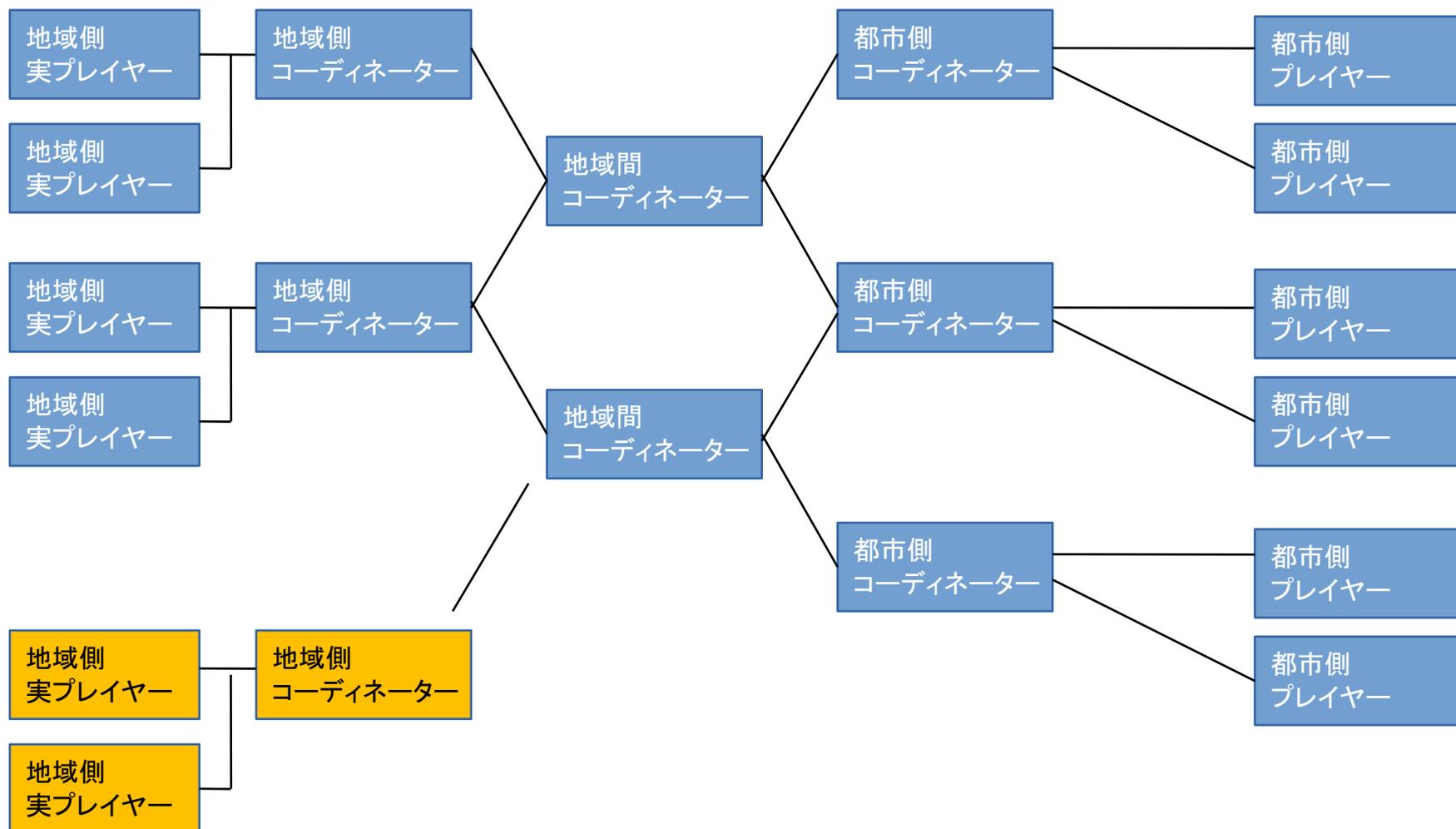
## パターンB: 地域コーディネーターモデル



パターンC:  
地域・都市コーディネーターモデル



## パターンD: 地域間コーディネーター導入モデル



CHIKI KYOSO COLLEGE

地域共創カレッジ

第2期受講生募集 ▶

ABOUT US 共創カレッジとは	CURRICULUM カリキュラム	REGION 地域紹介	INSTRUCTORS 講師紹介	STORY 共創ストーリー	COURSE 受講案内	NEWS お知らせ	CONTACT US お問い合わせ
----------------------	----------------------	----------------	---------------------	------------------	----------------	--------------	----------------------

2017年01月12日 地域共創カレッジ 2期（2017年度）受付開始しました！

MORE ▶

6ヶ月間という期間で、都市に軸足をおいたまま、  
「未来に挑戦するモデル地域でのソーシャルアントレプレナーたち」とともに、  
新しい未来を共創するプロジェクトに取り組み、  
その実践から「都市と地域の共創モデル」を学ぶ  
プロジェクト・ベースト・ラーニング形式のプログラムです。



株式会社 森の学校ホールディングス  
代表取締役 牧 大介さん  
<http://nishihour.jp/>

岡山県西粟倉村



宮城県女川町

NPO法人  
アスヘノキボウ  
代表理事  
小松 洋介さん  
<http://www.asuenokibou.jp/>

島根県海士町

株式会社巡の環  
代表取締役  
阿部 裕志さん  
<http://megurinowa.jp/>



徳島県上勝町

一般社団法人  
ソシオデザイン  
代表理事  
大西 正泰さん  
<http://socio-design.net/>

徳島県神山町

NPO法人グリーンバレー理事  
祁答院 弘智さん  
<http://www.in-kamiyama.jp/>



「これから人口減少社会に直面していく

未来の担い手として都市で腕を磨いているビジネスパーソンたち」



現在、都市で生活しながらも  
地域と関わるような次なるキャリアステップを模索している方



現在の働き方だけでなく方法で、  
社会の課題解決に取り組んでいく関わり方を模索している方

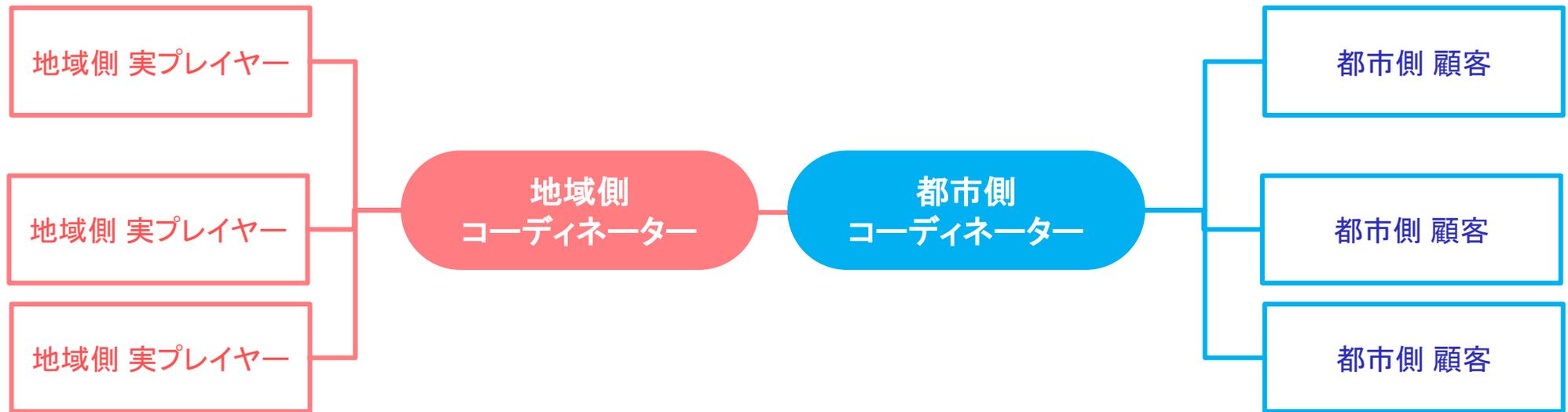


現在、都市で行っている仕事そのものを通じて、  
地域と一緒に未来を創っていきたい方

## 未来共創カレッジ

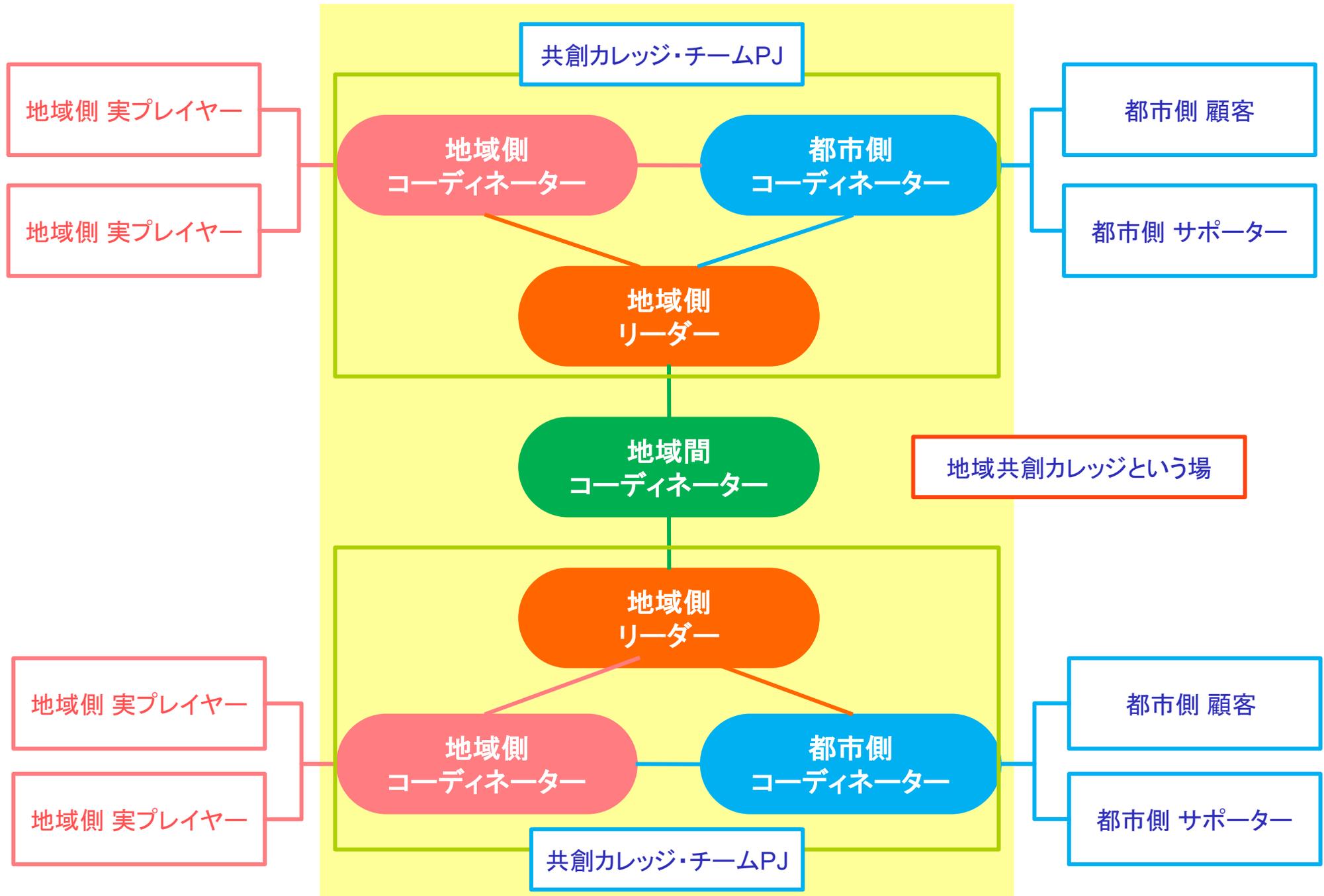


- ◆ 「都市的なビジネススキル」と、「田舎的なヒューマンスキル」とを兼ね備えた人材として、
- ◆ 都市と地域を繋げる仕事に携わり、
- ◆ 人材と地域との新たな関わり方、すなわち、「都市と地方の共創モデル」を担う







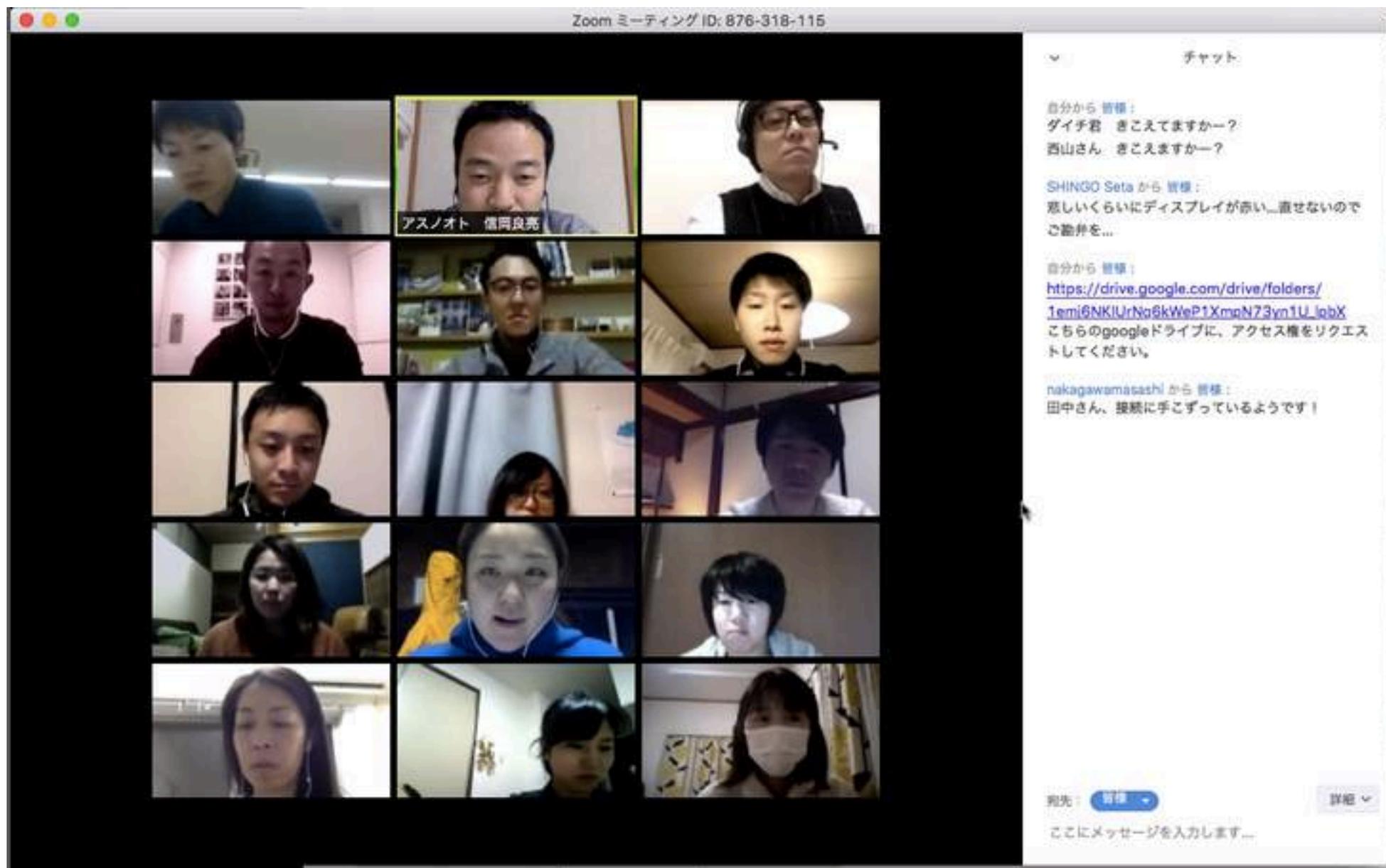


半年で何かが無理やりの成果を出すこと



これから10年以上かけて創っていく  
「共創のエコシステム(生態系)」  
のための土台づくり(共創関係づくり)としての半年

Zoom ミーティング ID: 876-318-115



The image shows a Zoom meeting interface. On the left, there is a 5x3 grid of 15 video thumbnails. The second thumbnail in the second row has a name tag that reads 'アスノオト 信阿良亮'. On the right, there is a chat window titled 'チャット'. The chat contains several messages:

- 自分から 皆様: ダイチ君 きこえていますかー?
- 西山さん きこえますかー?
- SHINGO Seta から 皆様: 悲しいくらいにディスプレイが赤い...直せないのご勘弁を...
- 自分から 皆様: [https://drive.google.com/drive/folders/1em6NKIUrNg6kWeP1XmqN73yn1U\\_labX](https://drive.google.com/drive/folders/1em6NKIUrNg6kWeP1XmqN73yn1U_labX) こちらのgoogleドライブに、アクセス権をリクエストしてください。
- nakagawamasashi から 皆様: 田中さん、接続に手こずっているようです!

At the bottom of the chat window, there is a text input field with the placeholder 'ここにメッセージを入力します...' and a '送信' button.